

令和7年度医学教育等関係業務功労者表彰に本学関係者から2氏
「北海道大学GHGインベントリ」が「サステイナブルキャンパス賞2025」を受賞
低温科学研究所の青木 茂教授が第67次南極地域観測隊の隊長に就任



全学ニュース

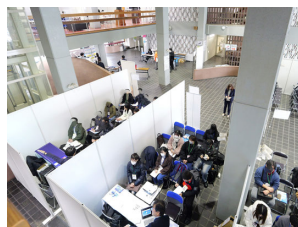
- 1 令和7年度医学教育等関係業務功労者表彰に本学関係者から2氏
- 2 大学入学共通テスト 本学一般選抜個別学力検査等 実施体制等の決定
- 5 フロンティア入試合格者の発表
- 6 国際総合入試合格者の発表
- 7 帰国生徒選抜合格者の発表
- 8 私費外国人留学生（学部）入試合格者の発表
- 9 事務局が「災害等危機対策本部設置訓練」を実施
- 10 TEATIME with Face2Face特別講義「Dr. Yokoの睡眠マネジメント～眠るほど、ぐんぐん仕事がうまくいく～」を開催
- 11 令和7年度小島三司奨学金受給者の決定
- 12 令和7年度北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙行政
- 13 令和7年度「北海道大学企業研究セミナー」を開催
- 14 北海道大学新プロモーションビデオを公開
- 15 学生の手で北大の魅力を世界へ 第2回Vlogコンテスト「How's your HokuDay? 2025 Summer」の開催
- 16 北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）
- 18 北海道ビジネスEXPOに出展—半導体研究の最前線を企業・行政へ発信—
- 19 総合イノベーション創発機構ワクチン研究開発拠点が市民公開講座を開催
- 20 BioJapan 2025に出展
- 21 「地域みらいキャリア【大学探究コース】」を実施
- 22 「R-DePIN 北海道×地域創生を軸としたWeb3とDePIN活用アイデアソン」を実施
- 23 「DEMOLA HOKKAIDO 2025 2nd Batchファイナルデモンストレーション」を実施
- 24 産学・地域協働推進機構が「北海道大学新技術説明会」を開催
- 25 「Save the Ocean in 函館」プレイベントを開催
- 26 「まちなかENGLISH QUEST」を実施
- 27 「メイブツクエスト」を実施
- 28 ASEAN外交官らが北海道大学を訪問、アントレプレナーシップ教育を紹介
- 29 シンガポールにおける産学連携と国際協働の推進
- 30 米国UMass Amherstと技術職員研修を実施
- 31 北海道大学×STV SDGsデー2025を開催
- 32 「北海道大学GHGインベントリ」が「サステイナブルキャンパス賞2025」を受賞
- 33 本学がホスト校となりCAS-Net JAPAN年次大会2025を開催



「まちなかENGLISH QUEST」を実施



北海道大学×STV SDGsデー2025を開催



令和7年度「北海道大学企業研究セミナー」を開催



「地域みらいキャリア【大学探究コース】」を実施

部局ニュース

- 34 低温科学研究所の青木 茂教授が第67次南極地域観測隊の隊長に就任
- 35 「よりよくくらす会議」を開催—脱炭素を軸に企業・自治体・大学が語る対話の場
- 36 法学研究科・法学部が札幌司法書士会と連携協定を締結
- 37 会計専門職大学院で日本内部監査協会と共催セミナーを開催
- 38 経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センターがシンポジウムを開催
- 39 経済学部が札幌国税局長の特別講演会を開催
- 40 医学部にネーミングライツ施設「はくやく・竹山 講堂」が誕生
- 41 医学部にネーミングライツ施設「なの花 kitchen」が誕生
- 42 保健科学研究院公開講座「ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ」を開催
- 43 令和7年度薬学部成績優秀賞授与式を挙行政
- 44 第45回 あぐり大学「イモはどうやってできる？」を開催
- 45 国際広報メディア・観光学院で教育・研究交流「TLLP スタディ・セッション」を開催
- 46 メディア・コミュニケーション研究院附属東アジアメディア研究センターがミャンマーの民主化運動に関するイベント展示会及び講演会を実施
- 47 音威子府村と北方生物圏フィールド科学センター中川研究林が包括連携協定を締結
- 48 サイエンスカフェ「森と社会と（ちょっと）未来のはなし」を開催
- 49 「第23回脳科学研究教育センターシンポジウム」を開催
- 50 「脳科学研究教育センター合宿研修」を開催
- 51 学生企画ミュージアムグッズの新展開
- 52 学生相談総合センターが「第2回学生相談フォーラム」を開催

表敬訪問 53

人事 54

- 54 新任教授紹介

訃報

- 55 名誉教授 宇井 理生 氏

資料

- 56 令和7年度外国人留学生数（令和7年11月1日現在）
- 57 令和7年度国別外国人留学生数（令和7年11月1日現在）
- 58 北大時報掲載記事事項一覧（令和7年掲載分）



第45回 あぐり大学「イモはどうやってできる？」を開催



学生企画ミュージアムグッズの新展開

表紙：「Save the Ocean in 函館」プレイベントを開催（関連記事25頁に記載）

裏表紙：キャンパス懐古⑨ 北大正門の前を走る市電（1963年12月）

■ 全学ニュース

令和7年度医学教育等関係業務功労者表彰に本学関係者から2氏

本年度の医学教育等関係業務功労者として、本学から、北海道大学病院看護部副看護師長の加瀬加寿美氏、北海道大学病院医療技術部放射線部門主任診療放射線技師の後藤啓司氏が表彰されました。

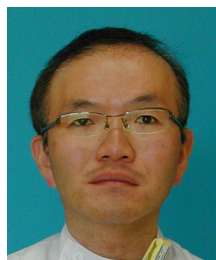
この表彰は、文部科学省が毎年、医学・歯学に関する教育研究または患者診療等に係る業務に関し顕著な功労のあった方々に対して行うものです。

各氏の表彰にあたっての感想を紹介します。

(社会共創部広報課)



北海道大学病院
看護部副看護師長
か せ か す み
加瀬 加寿美 氏



北海道大学病院医療技術部
放射線部門
主任診療放射線技師
ご と う け い じ
後藤 啓司 氏

この度は医学教育等関係業務功労者として表彰を賜り、身に余る栄誉と深く感謝申し上げます。表彰にあたり、ご推薦、ご尽力いただきました関係各位の皆様にご心よりお礼申し上げます。

私は平成6年に北海道大学医学部附属病院に入職し、ICU、小児科病棟、消化器・血液内科病棟勤務を経て、現在は医科外来に勤務しております。

ICUでは重症患者の治療を安全に行うためには、多職種連携がいかに重要かを学びました。救命だけでなく、QOLの向上や社会復帰を考えた看護がいかに大切かを学び、日々実践に努めてきました。また、治療の限界を迎えた患者さんの人生の最終段階における意思決定支援を、医療チーム全体で取り組みました。人生の最終段階において、看護の果たす役割が大きいことを実感しました。

私が入職した頃のICUは、同じフロアに血液疾患の造血幹細胞移植を行う高度無菌治療室が設置されており、移植初期の看護を学ぶことができました。感染予防のための厳しい管理を行っていた時代でしたが、小児科の子供達も大人の患者さんも必死に治療に取り組み、私達は苦痛緩和を図りながら感染症や合併症に対する看護で支えました。その後、消化器・血液内科病棟での勤務が一番長くなりました。がん治療は進歩が速く、治療法、感染・合併症への対応、支持療法などが改善され、QOLが向上しました。いつでも、私達は知識と技術を新たにしていける必要があります。現在は外来病棟での勤務の中、各科で新たな治療法が開始されると、外来看護が何を行うべきか対応を考え、取り組んでいるところです。より良い看護を提供するために、自分ができることは何かを考え、尽力していきたいと思っています。

最後になりましたが、ご指導いただきました看護部長、副看護部長、看護師長、諸先輩、同僚の皆様にご心から感謝申し上げます。

(北海道大学病院)

この度は医学研究等関係業務功労者として表彰を賜り深く感謝申し上げます。表彰にあたり、ご推薦、ご尽力いただきました関係各位の皆様にご心より厚く御礼申し上げます。

私は、平成5年に北海道大学医学部附属病院放射線部に入職して以来、今年で33年目を迎えております(途中、平成14年度の1年間は人事交流ということで、旭川医科大学の放射線部にもお世話になりました)。いろいろな部署を経験させていただきましたが、血管造影部門に長く関与しております。一つエピソードを紹介いたします。待機ポケベルを持っていた時に、夜中に急にぎっくり腰を発症してしまいました。「こんな時にポケベルが鳴ったら最悪だ…」と床に転がり七転八倒していたら、本当に鳴ってしまったのです。火事場のバカ力を地でいく自分がそこには居ました。今となっては、良い? 悪い? 思い出です。

近年、信じられないことが少なからず起こります。東日本大震災の津波、北海道胆振東部地震によるブラックアウト、新型コロナウイルスの蔓延。今年は、熊が各地で猛威を振るい、我々人間の生活圏だけでなく命までも脅かしています。極めて私ごとではありますが、この私が来年還暦を迎えようとしていることが、一番、信じられません。

最後になりますが、これまでの諸先輩方、同僚並びに一緒に業務をさせていただきました医師、看護師、その他コメディカルの方々、私に関わった全ての皆様のご支援、お力添えに深く感謝いたします。また、恒常的に生活を支えてくれた家族にも感謝いたします。微力ではありますが、今後も一社会人として何か貢献できることはないかと模索していきたいと思っています。この度は、誠にありがとうございます。

(北海道大学病院)

大学入学共通テスト 本学一般選抜個別学力検査等 実施体制等の決定

11月26日（水）開催のアドミッション本部試験場部会拡大会議において、令和8年度大学入学共通テスト及び本学一般選抜個別学力検査等に係る実施体制等を決定しました。

なお、大学入学共通テストについては、藤女子大学、天使大学、東海大学札幌キャンパス、北海道武蔵女子大学との共同実施となります。

主な事項は、次のとおりです。

（学務部入試課）

大学入学共通テスト

1 実施本部の設置

試験実施について総括し、連絡・調整するため実施本部を設け、その下に総務部、試験場部、救急医療部、連絡部及び広報部を置く。

2 試験場及び担当学部

（札幌市）

試験場・会場	試験場所	担当学部等
北海道大学試験場		
農学部会場	農学部	農学部
人文・社会科学総合教育研究棟会場	人文・社会科学総合教育研究棟	※経済学部・法学部
理学部会場	理学部	理学部
工学部会場	工学部	工学部
高等教育推進機構 A 会場	高等教育推進機構 E 棟1、2階	※文学部・教育学部
高等教育推進機構 B 会場	高等教育推進機構 E 棟3階	※歯学部・薬学部
保健科学研究所会場	保健科学研究所	※獣医学部・医学部
高等教育推進機構 N 会場	高等教育推進機構 N 棟2階	実施本部・北海道武蔵女子大学
藤女子大学試験場	藤女子大学	藤女子大学・天使大学・東海大学

※は、複数学部で担当する試験場の主担当学部

（高等教育推進機構 A 会場は、Sky HALL（高等教育推進機構大講堂）、N1、N2の教室を含む。）

（函館市）

試験場	試験場所	担当学部
北海道大学水産学部試験場	水産学部	水産学部

なお、オンデマンド形式でリスニング担当者説明会及び監督者説明会を開催しますので、監督者等となった方は必ず閲覧願います。

本学一般選抜個別学力検査等

1 実施本部の設置

試験実施について総括し、連絡・調整するため実施本部を設け、その下に総務部、出題部、採点部、試験場部、救急医療部、連絡部及び広報部を置く。

2 試験場及び担当学部

前期日程

試 験 場	試 験 場 所	担 当 学 部
第1試験場（農 学 部）	農 学 部	農 学 部
第2試験場（人文・社会科学総合教育研究棟）	人文・社会科学総合教育研究棟	※教 育 学 部 ・ 文 学 部
第3試験場（理 学 部）	理 学 部	理 学 部
第4試験場（工 学 部）	工 学 部	工 学 部
第5試験場（高等教育推進機構E棟1階、2階）	高等教育推進機構E棟1階、2階	※医 学 部 ・ 獣 医 学 部
第6試験場（高等教育推進機構E棟3階）	高 等 教 育 推 進 機 構 E 棟 3 階	※薬 学 部 ・ 歯 学 部
第7試験場（保 健 科 学 研 究 院）	保 健 科 学 研 究 院	※法 学 部 ・ 経 済 学 部
第8試験場（高等教育推進機構N棟2階）	高 等 教 育 推 進 機 構 N 棟 2 階	実 施 本 部

※は、複数学部で担当する試験場の主担当学部

（上記8試験場で受験者を収容できない場合、別の試験場を設けることがある。）
 （第5試験場は、Sky HALL（高等教育推進機構大講堂）、N1、N2の教室を含む。）
 （第5試験場の2日目は医学部が担当する。）
 （第6試験場の2日目は歯学部が担当する。）

後期日程

試 験 場	試 験 場 所	担 当 学 部
第1試験場（農 学 部）	農 学 部	農 学 部
第2試験場（人文・社会科学総合教育研究棟）	人文・社会科学総合教育研究棟	※経 済 学 部 ・ 法 学 部
第3試験場（理 学 部）	理 学 部	理 学 部
第4試験場（薬 学 部）	薬 学 部	薬 学 部
第5試験場（工 学 部）	工 学 部	工 学 部
第6試験場（高等教育推進機構E棟1階、2階、3階）	高等教育推進機構E棟1階、2階、3階	※文 学 部 ・ 教 育 学 部
第7試験場（高等教育推進機構N棟）	高 等 教 育 推 進 機 構 N 棟	獣 医 学 部
第8試験場（水 産 学 部）	水 産 学 部	水 産 学 部
第9試験場（高等教育推進機構N棟2階）	高 等 教 育 推 進 機 構 N 棟 2 階	実 施 本 部

※は、複数学部で担当する試験場の主担当学部

なお、オンデマンド形式で監督者説明会を開催しますので、前期日程または後期日程において、監督者等となった方は必ず閲覧願います。

令和8年度入試実施日程表

種類		出願期間等	選考期日（試験日）		合格発表日	入学手続期間	選考方法
フロンティア入試	フロンティア入試TypeⅠ （大学入学共通テストを課す） （理学部（地球惑星科学科）、 医学部（医学科、保健学科（看護学専攻、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻、理学療法専攻、作業療法学専攻））、 歯学部、工学部（応用理工系学科（応用マテリアル工学コース）、環境社会工学科（社会基盤学コース））、水産学部）	学生募集要項公表 R7.5.30（金）～公表中 出願期間 R7.9.11（木）～9.17（水）	第1次選考	書類選考	R7.10.28（火）	R8.2.10（火） ～2.16（月）	個別学力検査を免除し、大学入学共通テスト、課題論文等及び面接を課す。
	第2次選考		R7.11.16（日） 課題論文等、面接	R7.12.9（火）			
	最終合格		R8.1.17（土） ～1.18（日） 大学入学共通テスト	R8.2.10（火）			
	第1次選考		書類選考	R7.10.28（火）	R7.12.9（火） ～12.15（月）	大学入学共通テスト及び個別学力検査を免除し、適性試験及び面接を課す。	
	第2次選考		R7.11.16（日） 適性試験、面接	R7.12.9（火）			
国際総合入試		学生募集要項公表 R7.5.30（金）～公表中 出願期間 R7.9.16（火）～9.25（木）	第1次選考	書類選考	R7.10.28（火）	R7.12.9（火） ～12.15（月） ただし、条件付合格の場合は R8.2.10（火） ～2.16（月）	大学入学共通テスト及び個別学力検査を免除し、面接を課す。
			第2次選考	R7.11.16（日） 面接	R7.12.9（火） ただし、条件付合格の場合の 最終合格発表 R8.2.10（火）		
帰国生徒選抜		学生募集要項公表 R7.5.30（金）～公表中 出願期間 R7.9.16（火）～9.25（木）	第1次選考	書類選考	R7.10.28（火）	R7.12.9（火） ～12.15（月）	大学入学共通テスト及び個別学力検査を免除し、課題論文等及び面接を課す。
			第2次選考	R7.11.16（日） 課題論文等、面接	R7.12.9（火）		
私費外国人留学生（学部）入試		学生募集要項公表 R7.5.30（金）～公表中 出願期間 R7.9.16（火）～9.25（木）	第1次選考	書類選考	R7.10.28（火）	R7.12.9（火） ～12.15（月）	大学入学共通テストを免除し、各学部が指定する「第2次選考の実施科目等」及び日本留学試験を課す。
			第2次選考	R7.11.16（日） 課題論文等、面接	R7.12.9（火）		
大学入学共通テスト		受験案内公表 R7.6.20（金）～公表中 出願期間 R7.9.16（火）～10.3（金）	本試験	R8.1.17（土） ～1.18（日）			
			追・再試験	R8.1.24（土） ～1.25（日）			※再試験は、本試験が実施できなかった場合に行う。
一般選抜	前期 日程	学生募集要項公表 R7.10.24（金）～公表中 出願期間 R8.1.26（月）～2.4（水）	第1段階選抜	大学入学共通テストの成績による （志願者が多い場合）	R8.2.10（火）	R8.3.6（金） ～3.15（日）	大学入学共通テスト及び個別学力検査等を課す。
			第2段階選抜	R8.2.25（水） 個別学力検査 R8.2.26（木） 面接（医学部医学科、歯学部）	R8.3.6（金）		
	後期 日程		第1段階選抜	大学入学共通テストの成績による （志願者が多い場合）	R8.2.27（金）	R8.3.20（金・祝） ～3.27（金）	大学入学共通テスト及び個別学力検査等を課す。
			第2段階選抜	R8.3.12（木） 個別学力検査等	R8.3.20（金・祝）		
令和9年度 私費外国人留学生 （現代日本学プログラム 課程）入試 （令和9年4月入学）		学生募集要項公表 R7.8.29（金）～公表中 出願期間 R7.10.27（月）～11.5（水） 学生募集要項公表 R7.8.29（金）～公表中 出願期間 R8.2.2（月）～2.10（火）		R8.1.6（火） ～1.15（木） 書類選考、面接	R8.2.13（金）	R8.2月～	書類選考及び面接を課す。
				R8.4.6（月） ～4.15（水） 書類選考、面接	R8.5.13（水）	R8.5月～	
私費外国人留学生 （Integrated Science Program （学士課程））入試 （令和8年10月入学）		学生募集要項公表 R7.8.29（金）～公表中 出願期間 R7.11.11（火）～11.20（木）	第1次選考	書類選考	R8.2.12（木）	R8.3月～	書類選考及び面接を課す。
			第2次選考	R8.2.17（火） ～3.3（火） 面接	R8.3.24（火）		

（学務部入試課）

フロンティア入試合格者の発表

令和8年度フロンティア入試（総合型選抜）は、募集人員135名（Type I：69名、Type II：66名）に対し、317名（Type I：127名、Type II：190名）の出願がありました。自己推薦書、個人評価書等の出願書類による第1次選考合格者に対して、11月16日（日）に第2次選考の課題論文、総合問題、適性試験及び面接試験を実施し、12月9日（火）に合格者発表が行われ、Type IIでは63名が最終合格となりました。

なお、大学入学共通テストを課すType Iの最終合格者発表は、2月10日（火）を予定しています。

（学務部入試課）

令和8年度フロンティア入試合格者数等一覧

学部・学科等				募集人員	志願者数	倍 率	第2次選考 合格者数	最終 合格者数	
Type I	理学部地球惑星科学科			5	17 (0)	3.4	5 (0)	2/10に発表	
	医学科 保健学科	医学科		5	10 (4)	2.0	5 (3)		
		看護学専攻 放射線技術科学専攻 検査技術科学専攻 理学療法専攻 作業療法専攻			7	5 (3)	0.7		2 (1)
					7	6 (1)	0.9		5 (1)
					5	7 (3)	1.4		5 (2)
					4	11 (6)	2.8		4 (1)
					3	1 (0)	0.3		1 (0)
	歯学部			5	7 (0)	1.4	5 (0)		
	工学部	応用理工系学科 (応用マテリアル工学コース)		4	12 (4)	3.0	7 (3)		
環境社会工学科 (社会基盤学コース)		4	6 (1)	1.5	4 (0)				
水産学部				20	45 (5)	2.3	20 (4)		
小 計				69	127 (27)	1.8	63 (15)		
Type II	理学部	数学科		13	49 (21)	3.8	14 (3)	14 (3)	
		物理学科		14	19 (7)	1.4	10 (3)	10 (3)	
		化学科		11	29 (9)	2.6	11 (4)	11 (4)	
		生物科学科 (高分子機能学専修分野)		3	9 (3)	3.0	3 (1)	3 (1)	
	工学部	応用理工系学科 (応用物理工学コース)		15	40 (15)	2.7	15 (7)	15 (7)	
		機械知能工学科		5	21 (6)	4.2	5 (2)	5 (2)	
		環境社会工学科 (環境工学コース)		5	23 (7)	4.6	5 (1)	5 (1)	
		小 計		66	190 (68)	2.9	63 (21)	63 (21)	
計				135	317 (95)	2.3	126 (36)	63 (21)	

※（ ）内の数字は、道内高校出身者で内数。

国際総合入試合格者の発表

国際総合入試は、「北海道大学近未来戦略150」に掲げるグローバル人材の育成のため、国や地域、学問分野を超えたボーダーレスなグローバル社会を生き抜き、リードする意欲と資質を持った人材を人物本位で選抜することを目的として平成30年度入試より導入したもので、主な対象者を国際バカロレア資格の取得者等としています。

令和8年度国際総合入試は、募集人員15名に対し、56名の出願がありました。自己推薦書、志望理由書等の出願書類による第1次選考合格者に対して、11月16日（日）に第2次選考の面接試験を実施し、12月9日（火）に合格者発表が行われ、15名が合格しました。15名すべての合格者について、国際バカロレアの最終スコアが後日発表されるため、条件付合格となっています。

なお、条件付合格者の最終合格発表は、2月10日（火）を予定しています。

（学務部入試課）

令和8年度国際総合入試合格者数等一覧

学部・学科等		募集人員	志願者数	倍率	合格者数 (条件付合格者含む)	最終合格者数
総合入試	文系	5	23 (17)	4.6	5 (4) [5 (4)]	2/10に発表
	理系	10	33 (17)	3.3	10 (4) [10 (4)]	
計		15	56 (34)	3.7	15 (8) [15 (8)]	

※（ ）内の数字は、女子で内数。

※ [] 内の数字は、条件付合格者数で内数。

帰国生徒選抜合格者の発表

令和8年度帰国生徒選抜は、11学部にて66名の出願がありました。出願書類による第1次選考合格者に対し、11月16日（日）に第2次選考の課題論文等と面接試験を実施し、12月9日（火）に合格発表が行われ、12名が合格しました。

(学務部入試課)

令和8年度帰国生徒選抜合格者数等一覧

学部・学科等			募集 人員	志願者数	合格者数
文学部			若干名	4 (2)	0 (0)
教育学部				9 (4)	1 (1)
法学部				8 (4)	5 (2)
経済学部				5 (3)	1 (1)
理学部	数学科			1 (0)	0 (0)
	物理学科			1 (0)	1 (0)
	化学科			—	—
	生 物	生物学専修分野		2 (0)	0 (0)
	科学科	高分子機能学専修分野		2 (2)	1 (1)
地球惑星科学科				—	—
医学部	医学科			1 (0)	0 (0)
	保健 学科	看護学専攻		3 (2)	0 (0)
		放射線技術科学専攻		2 (1)	0 (0)
		検査技術科学専攻		—	—
		理学療法学専攻		2 (1)	0 (0)
		作業療法学専攻		1 (1)	0 (0)
	歯学部			2 (2)	0 (0)
薬学部				—	—
工学部	応用理工系学科			1 (0)	1 (0)
	情報エレクトロニクス学科			3 (1)	1 (0)
	機械知能工学科			8 (4)	1 (0)
	環境社会工学科			1 (0)	0 (0)
農学部				5 (3)	0 (0)
獣医学部				2 (2)	0 (0)
水産学部				3 (0)	0 (0)
計				66 (32)	12 (5)

※ () 内の数字は、女子で内数。

私費外国人留学生（学部）入試合格者の発表

令和8年度私費外国人留学生（学部）入試は、11学部118名の出願がありました。出願書類による第1次選考合格者に対し、11月16日（日）に第2次選考の課題論文等と面接試験を実施し、12月9日（火）に合格発表が行われ、20名が合格しました。

（学務部入試課）

令和8年度私費外国人留学生（学部）入試合格者数等一覧

学部・学科等			募集 人員	志願者数	合格者数
文学部			若干名	7（3）	2（2）
教育学部				3（2）	0（0）
法学部				5（1）	2（1）
経済学部				12（6）	2（1）
理学部	数学科			4（1）	1（1）
	物理学科			9（2）	3（0）
	化学科			4（1）	2（1）
	生物科学科	生物学専修分野		3（1）	1（1）
		高分子機能学専修分野		－	－
地球惑星科学科		－		－	
医学部	医学科			1（0）	0（0）
	保健学科	看護学専攻		－	－
		放射線技術科学専攻		1（1）	0（0）
		検査技術科学専攻		－	－
		理学療法学専攻		－	－
		作業療法学専攻		－	－
歯学部				1（0）	0（0）
薬学部				4（1）	1（0）
工学部	系理工学科	応用物理工学コース		3（1）	0（0）
		応用化学コース		8（4）	0（0）
		応用マテリアル工学コース		－	－
	情報エレクトロニクス学科	情報理工学コース		15（1）	1（0）
		電気電子工学コース		8（3）	1（0）
		生体情報コース	2（1）	0（0）	
		メディアネットワークコース	－	－	
		電気制御システムコース	1（0）	1（0）	
	工学科	機械・宇宙航空工学コース	7（2）	1（1）	
		量子エネルギー医工学コース	－	－	
	環境社会工学科	社会基盤学コース	－	－	
		国土政策学コース	1（1）	1（1）	
		建築都市コース	5（1）	0（0）	
		環境工学コース	1（1）	0（0）	
資源循環システムコース		1（0）	1（0）		
農学部			4（2）	0（0）	
獣医学部			－	－	
水産学部			8（2）	0（0）	
計			118（38）	20（9）	

※（ ）内の数字は、女子で内数。

事務局が「災害等危機対策本部設置訓練」を実施

11月4日（火）、事務局2号館2階大会議室において、災害等危機対策本部設置訓練を実施しました。

本訓練は、平時における大会議室のレイアウトから災害等危機対策本部（以下「対策本部」という。）へのレイアウト変更、情報伝達に関する机上訓練等を行うことによって、災害発生時の迅速な対策本部の設置・運営に必要な対応力を身に付けることを目的と

し、事務局各課（室）の職員42名が参加して行われました。

総務課職員による進行の下、対策本部を構成する各班に分かれ、レイアウト変更、被害情報の集計、模擬対策本部会議の開催等の訓練が行われました。

訓練終了後、対策本部総括副本部長である行松泰弘理事から、災害は思いがけないときに発生し、発生した場合には停電や少数の職員しか参集できな

い等、対応が困難な状況も考えられることから、災害時の心がまえを日頃から持って訓練を積むことが重要であるとの講評がありました。

北海道大学では、今後も防災意識の向上に資する訓練等を継続的に実施します。

（総務企画部総務課）



被害状況報告の様子



模擬対策本部会議の様子



講評を行う行松理事（右）

TEATIME with Face2Face特別講義「Dr. Yokoの睡眠マネジメント～眠るほど、ぐんぐん仕事もうまくいく～」を開催

11月4日（火）、学務企画課大学院教育改革推進室では、「TEATIME with Face2Face」の一環として、特別講義「Dr. Yokoの睡眠マネジメント～眠るほど、ぐんぐん仕事もうまくいく～」を開催しました。TEATIME with Face2Faceは、「研究室では得られない経験を届ける」をコンセプトに、博士課程学生を中心とした大学院生の交流を目的とした企画です。今回は博士後期課程から学部生までを対象とし、150名を超える参加申し込みがありました。

今回は身近な「睡眠」をテーマに、

本学医学部の卒業生である石田陽子氏にご講演いただきました。石田氏は、麻酔科医、起業家、公衆衛生学研究者として幅広く活躍されており、睡眠医学や時間生物学などの知見をもとに、睡眠を休息ではなく戦略と捉える「睡眠マネジメント」について、科学的な視点から解説しました。また、日常生活における睡眠の整え方として、早寝による睡眠負債の解消、スマートフォンの刺激対策、体温調整を意識した生活習慣などが紹介されました。特に、起床から12時間以降はパフォーマンスレベルが急激に下がり、16時間後には

ほろ酔い程度にまで落ちるという研究成果が紹介され、参加学生から驚きの声が上がっていました。

参加学生からは、「徹夜で乗り切ろうとしがちな大学院生にとって有意義だった」との声もあり、研究や学びを支える睡眠の重要性を再認識する機会となりました。

なお、本講義の詳細は、当室のnoteでも紹介しています。

https://note.com/grad_hokudai/m/mdbc7ecd3865d

（学務企画課大学院教育改革推進室）



講師を勤めた石田氏



講義の様子

令和7年度小島三司奨学金受給者の決定

この度、令和7年度小島三司奨学金の受給者が決定しました。

本奨学金は、本学の元職員である故小島三司氏の遺志に基づき、アルツハイマー病を研究する大学院生に、奨学金を給付することにより、研究活動の充実を図り、医学の進歩に寄与するこ

とを目的として創設された、返還義務のない給付型の奨学金です。

今年度は、医学院から1名の推薦があり、厳正な審査を行った結果、推薦のあった1名を本奨学金の受給者として決定しました。受給者には、年額60万円が給付されます。

【令和7年度受給者】

医学院 佐藤 伶音

(学務部学生支援課)

令和7年度北海道大学私費外国人留学生特待プログラム 留学生採用証書授与式を挙

11月11日（火）、高等教育推進機構において、北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙

同プログラムは、学業成績が優秀かつ国際的な貢献に寄与する人材を育成することを目的とし、平成20年度に開

始された制度です。大学院に入学する私費外国人留学生を対象としており、研究分野、研究課題等を明確にしたプログラムに基づき受入れを行っています。

授与式には採用者1名が出席し、高橋 彩理事・副学長から採用者に採用

証書が授与されました。続いて、本学での様々な経験を通して世界で活躍する人物へ成長してほしいと激励の言葉が述べられ、学生は真剣なまなざしで聞き入っていました。

（学務部学生支援課）



採用者との記念撮影



高橋理事・副学長から証書授与

令和7年度「北海道大学企業研究セミナー」を開催

10月24日（金）～26日（日）及び11月7日（金）～9日（日）までの計6日間、「北海道大学企業研究セミナー」を開催しました。

本セミナーはキャリアセンターと校友会エルクが主催する合同企業説明会であり、平成16年度から毎年開催している全学的な就職支援イベントです。学生が主体的に企業・業界研究を行うことにより、就職活動へ向けての礎を築くことを目的としています。

クラーク会館を会場に北大生の採用に積極的な236社の企業・団体が参加し、採用担当者が30分の説明を3回行いました。学生は1日で最大6社の説明を聞くことができ、延べ2,364名が参加しました。

学内での対面開催のため、採用担当者や北大OB・OGに気軽に質問できる

機会となり、参加学生からは「社風や職場の雰囲気も垣間見ることができた」「普段は札幌での説明会参加がない企業の方とも直接話すことができた」といった感想がありました。また、「幅広い分野の企業が集まっていたり知識を広げることができた」などの感想があり、企業・業界の理解を深める機会になるとともに、対面開催ならではの企業との偶然の出会いもあった、学生満足度が高いイベントとなりました。

さらに、学食スペースを活用して、土日限定で「商品PRコーナー」を設置しました。企業からの提供品のほか、キャリアセンターからおにぎりやパン、どら焼きといった軽食を提供し、お昼時だけではなく、セミナー開始前にも学生が訪れるなど休憩場所として

も活用され、多くの学生で賑わいました。企業からの提供品は、自社の商品・製品や業務の特色を生かしたノベルティグッズなど様々であり、多くの企業のご協力を得て実施することができ、学生からも大変好評でした。

本年度もセミナー特製オリジナルティーを製作して、事前の広報や当日の先着特典として活用した、広報活動を展開し、図書館や各部局等からの周知にもご協力いただき、多くの学生に参加してもらうことができました。

キャリアセンターでは、本セミナーが企業・学生双方にとってより良いイベントになるよう引き続き検討してまいります。

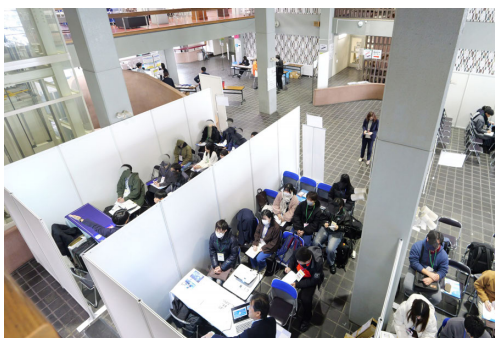
（学務部キャリア支援課）



セミナーの様子



「商品PRコーナー」で企業・団体提供の商品を手にする学生



クラーク会館内会場の様子



事前告知に協力いただいた様子

北海道大学新プロモーションビデオを公開

11月19日（水）に、北海道大学の魅力を存分に詰め込んだ「北海道大学新プロモーションビデオ」を公開しました。

本動画はもともと留学生リクルーティング用として作成したのですが、日本語字幕を付記することで、日本人学生に対する説明会や、各種イベントにおける大学紹介としても利用できる動画となっています。

現在、本学公式YouTubeチャンネルでご覧いただけます。ぜひ一度ご覧いただき、いろいろな場面でご活用ください。

今回公開した動画は2本です。後日、第2弾としてショート動画の公開も予定しています。

■Discover Your Potential（大学イメージ動画：約2分）

キャンパス内の美しい風景や最先端の研究、そして学生たちの生き生きとした日常を切り取った映像美が魅力です。北海道大学の雰囲気を直感的に感じることができます。

<https://youtu.be/QrkiZV7o41Q>

■What is your North Star?（ドキュメンタリー動画：約10分）

学生たちへのインタビューを通し

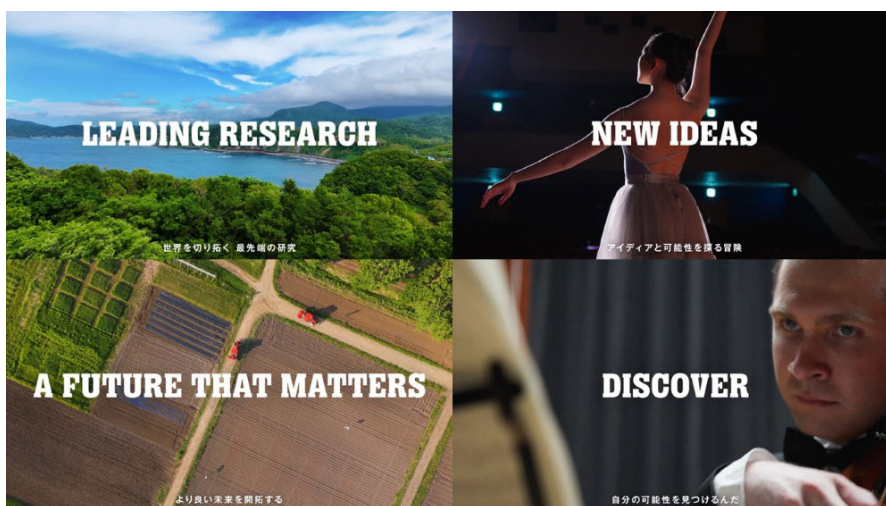
て、北大での学びや暮らし、そしてそれぞれが抱く夢と挑戦をリアルに描き出します。

雄大な自然に抱かれたキャンパス、世界を牽引する最先端の研究、そして夢に向かって力強く歩む学生たち。この映像には、北海道大学の「今」と「未来」が詰まっています。

見ればきっと「北大に通ってみたい」そんな想いが芽生えるはずです。

<https://youtu.be/eLB6jRKDISo>

（国際部国際連携課）



Discover Your Potential



What is your North Star?

学生の手で北大の魅力を世界へ 第2回Vlogコンテスト 「How's your HokuDay? 2025 Summer」の開催

北海道大学国際連携推進本部リクルーティングオフィスでは、北大生の日常を英語で紹介するVlog (Video blog) コンテストを開催しました。本コンテストは、リクルーティングオフィスで活躍するインターンシップ学生が企画・運営する2回目のイベントです。

6月から募集を開始し、9月の締切後、審査を経て、11月6日(木)に長編部門・短編部門の入賞者への授賞式を執り行いました。

世界中の北大留学希望者に、実際の学生目線から北大の魅力を届けることを目的としたイベントのため、応募作品はリクルーティングオフィスの各種SNS (Instagram・Facebook・LinkedIn) で発信し、リアルな学生生活の様子を通じて北大の魅力を伝えていきます。

今回は晩秋から冬にかけての開催だったため、雪景色を中心とした動画が多く寄せられました。一方、今回は緑

豊かなキャンパスの魅力が伝わる作品が多数集まり、四季折々の北大の表情を世界に発信することができました。

また、学部生・大学院生・短期留学生と幅広い層から応募があり、「北大の魅力を世界へ」という取り組みに対する学生の高い関心がうかがえました。国際的な情報発信への学生参加が着実に広がっています。

(国際部国際連携課)

受賞者：

長編部門

- 1位：水産科学院 カーン・ティッパヤックライスリさん
- 2位：国際広報メディア・観光学院 トゥティ・エルフリダさん
- 3位：工学院 アシュワニ・クマール・デヴィシャランさん

短編部門

- 1位：高等教育推進機構 (HUSTEP) トラン・ホアン・ハイ・ガンさん
- 2位：農学部 久保田智博さん
- 3位：国際広報メディア・観光学院 イランさん



授賞式参加者

北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）

北海道大学は、創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に北大フロンティア基金を創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、息の長い募金活動をするとしています。

2026年、北海道大学は創基150周年を迎えます。次の150年を見据えた記念事業のため、2023～2026年度の4年間、北大フロンティア基金は「創基150周年記念募金」として、皆様からのご寄附を募集しております。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金創設時累計	（10月31日現在）／57,248件	9,573,163,899円
うち、北海道大学創基150周年記念募金累計	（10月31日現在）／20,200件	3,408,395,342円

<ご寄附状況>

10月は282件115,034,995円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名を掲載させていただきます（五十音別・敬称略）。

寄附者ご芳名（法人等）

株式会社木村工務店、一般財団法人協済会、株式会社ケアネット、国土防災技術株式会社、株式会社シルバーボックス・プリンシパル、医療法人伸阿会、水ingエンジニアリング株式会社、医療法人スワンアイクリニック、太平電業株式会社、東北電力楡影会、株式会社トーア、一般社団法人日本哺乳類学会、ふらのバス株式会社、株式会社ブランテック、有限会社村井新聞店

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	青井 良平	青木 俊介	青木 孝之	浅沼 佳南	阿部 雅史	家坂 光	石井 哲夫
石崎 福邦	石野 悟司	泉 健太郎	伊藤 圭	伊藤 雄三	井戸川寛志	井上 将希	井場 将夫
今井 四郎	今井 晋	入澤 秀次	鷗飼 隆好	梅本 由佳	江口 遼太	縁記 和也	遠藤 公憲
大原 正範	岡田 英子	岡部 晋也	岡松 優子	沖崎 遼	奥村 正裕	小田原一史	小原 大和
角田典史雄	風間 聿子	風間 透	片平 忠志	加藤 美羅	金川 聖也	金川 眞行	加納 里志
河本 充司	菊池 俊彦	岸田 音生	衣川 暢子	君島 哲夫	久々湊 聖	栗原 誠治	黒瀬 一弘
小出 達夫	上月 浩	小澤 尚晴	小関 成樹	後藤 彰紀	小丹枝利昭	小林 光	近藤 浩正
齊藤 晋	齋藤 久	坂本 大介	崎元 大志	迫田 賢人	佐藤 宣行	晒谷 健史	三升畑元基
志済 聡子	清水 聡子	下地 浩二	白石 和行	末富 弘	菅原 新也	杉江 和男	鈴木 知
鈴木 貴之	鈴木 裕之	瀬尾 眞浩	瀬川 信久	瀬名波栄潤	高瀬登志彦	高橋 均	滝沢 亮介
田栗 和奈	竹岡 豊喜	武田 英明	竹田山原楽	田附 正史	田中壮一郎	谷田 孝志	田村 春人
對馬 新	對馬那由多	津田 格	土家 琢磨	鄭 雄一	徳田 直樹	豊田 威信	長尾 輝彦
中西 圭太	梨本 沙織	西田 和代	新田 政信	根本 叔治	野中 成晃	野々村克也	長谷川順子
花田 秀一	林 直樹	原 啓介	原田 祐司	半崎 貴敏	仁川 勲	人見 剛	廣重 勝彦
福永 悟郎	藤井 治也	藤井 靖久	藤澤 裕子	藤田 芳康	船水 智行	房 知輝	細谷 謙次
前園 佳祐	松井 耕二	松原 謙一	三浦 淳一	三浦 一	三上 英範	三木 證永	水口 洋
水谷 央	三土 京子	宮田 信幸	村岡 俊二	村上 広輝	村瀬徳啓充	森下啓太郎	森田 研
森田 裕介	八重樫幸一	八神未千弘	八幡 敬一	山口 光	山田 哲	山田 克洋	山本 聡
余湖 兼右	横井 勝彦	横山 考	吉田かよこ	吉田 広志	和久井俊秀	渡辺 昭	渡邊 一希

<寄附者への特典>

創基150周年を記念した銘板

創基150周年を記念した銘板をご用意しました。銘板は、これまでのご寄附累計金額をもとに、本学総合博物館に掲出させていただきます。個人・法人共に、ご寄附の累計が1億円以上でプレミアムゴールド、1千万円以上でゴールド、500万円以上でシルバー、100万円以上でブロンズとなります。

既存のホワイト銘板は累計20万円以上が対象です（令和2年度以前は総合博物館、令和3年度以降は百年記念会館に掲出）。なお、銘板については、年度内に賜ったご寄附の累計を取りまとめ後、翌年度9月頃を目途に掲出いたします。

※このほか、ご寄附の金額に応じ、オリジナルグッズや感謝状の贈呈、御礼の場など様々な特典をご用意させていただきます（詳細はこちらでご確認ください <https://www.hokudai.ac.jp/fund/gratitude/>）。

<感謝状の贈呈>



加藤 元様（令和7年10月5日）



合同会社石川会計様（令和7年10月9日）



アジア航測株式会社様（令和7年10月15日）

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員からの寄附」にアクセスしてください。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff/>

①給与口座からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（給与口座からの引落）」をダウンロードし、ご記入の上、卒業生・基金室 基金事務担当に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

卒業生・基金室 基金事務担当にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、卒業生・基金室 基金事務担当までご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、卒業生・基金室 基金事務担当にもご用意していますので、お越しいただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済・PayPayでのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 卒業生・基金室 基金事務担当（事務局・学内電話 2017）

北海道ビジネスEXPOに出展 —半導体研究の最前線を企業・行政へ発信—

11月6日（木）・7日（金）にアクセスサッポロで開催された「北海道ビジネスEXPO 2025」に、半導体分野の研究成果を紹介するブースを出展しました。今回の出展は、半導体フロンティア教育研究機構と総合イノベーション創発機構ナノテクノロジー連携研究推進室、さらに半導体関連の複数の研究室が連携して実現したものです。

ブースでは、高温や放射線線量の高い過酷な環境での使用が期待されるダイヤモンド半導体や、AIを活用した機器の故障検知など、各研究室の研究成

果を展示しました。説明の中心を担ったのは学部生・大学院生や若手研究者です。専門的な内容をわかりやすく伝えるため、事前にプレゼン練習を重ね、来場者からの質問にも丁寧に対応しました。

ナノテクノロジー連携研究推進室からは、文部科学省「マテリアル先端リサーチインフラ」事業の一環として、電子顕微鏡・光学顕微鏡を用いた半導体デバイスの構造観察のデモを実施しました。高等専門学校生も多数来場し、興味深そうに見学していました。

イベント初日には、鈴木直道北海道知事が本学ブースをご視察されました。研究室所属の学生が、ビヨンド2ナノ世代で注目を集める2次元半導体を使用した高感度センサーのデモを行い、鈴木知事も複数の質問を投げかけるなど強い関心を示していました。

産業界や行政関係者との対話を通じて、研究の社会実装に向けた期待が高まり、さらに学生・若手研究者にとっても成長の場となりました。

（経営企画本部企画課）



視察を行う鈴木知事



鈴木知事にデモを行う様子



研究展示の様子



半導体構造観察の様子

総合イノベーション創発機構ワクチン研究開発拠点が市民公開講座を開催

総合イノベーション創発機構ワクチン研究開発拠点は、11月3日（月・祝）に学术交流会館において市民公開講座「知っておきたい感染症とワクチンの話」を対面で開催しました。

はじめに、ワクチン研究開発拠点長の澤 洋文教授が、「人獣共通感染症に対する取り組み」と題して、人獣共通感染症の概要や感染症への対策、新型コロナウイルス感染症が国際社会に及ぼした影響、そして平時からの感染症対策の重要性について、診断キット・治療薬・予防法の確立を例に挙げながら講演しました。

続いて、本学の喜田 宏ユニバーシティプロフェッサー（ワクチン研究開発拠点特任教授/人獣共通感染症国際

共同研究所統括）が、「次のパンデミックに備えて」という演題で、半世紀を超えるインフルエンザウイルスの生態研究によって、ウイルスの自然宿主、自然界における存続機構とパンデミックインフルエンザウイルスの出現機構の解明に至った経緯を説明しました。さらに、その成果を次のパンデミックに備えたワクチンと治療薬の開発・実用化につなげる取り組みについて、市民の目線に立ってわかりやすく紹介しました。

最後に、鈴木定彦特任教授/ワクチン研究開発拠点副拠点長が、「結核：世界の現状と制圧に向けた対策」の講演で、結核が過去の病気ではなく、現在でも世界人口の約4分の1が結核菌に

感染していること、そして発症すると治療に約6か月間という時間を要すること、BCGワクチンが唯一の小児に対する結核ワクチンであること、そして現在取り組んでいる新たな成人結核ワクチンの開発など、動画やクイズを交えてわかりやすく説明しました。

休日にもかかわらず、当日は45名の方々が参加し、感染症とワクチンについて理解を深める充実した学びの時間となりました。総合イノベーション創発機構ワクチン研究開発拠点では、今後も積極的に情報提供してまいります。

（総合イノベーション創発機構ワクチン研究開発拠点）



講演に関心を寄せる市民



講演者を囲んでの記念撮影

BioJapan 2025に出展

総合イノベーション創発機構ワクチン研究開発拠点は、10月8日（水）～10日（金）にパシフィコ横浜で開催されたBioJapan 2025に出展しました。

本イベントは「BioJapan」「再生医療JAPAN」「health TECH JAPAN」の3展が同時開催される、アジア最大級のライフサイエンス・パートナーングイベントです。国内外から多くの企業、スタートアップ、アカデミア、研究機関が参加し、会期3日間の来場者数は延べ22,167人に上りました。

今回は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）/先進的研究開発戦略センター（SCARDA）が推進する「ワクチン開発のための世界ト

ップレベル研究開発拠点の形成事業」の一環として、研究開発及び広報活動を実施しました。北海道大学、東京大学、千葉大学、大阪大学、長崎大学の5拠点機関が共同で出展し、各機関の研究成果や今後の展望を紹介しました。

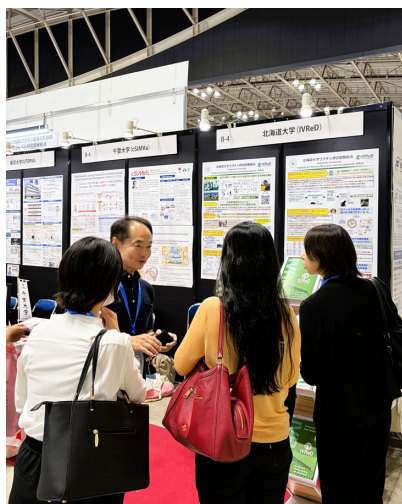
展示ブースでは、北大拠点の研究ハイライトを紹介する動画を流し、これまでの研究成果や最新の取り組みをポスターや配布資料で紹介すると共に、企業との個別面談を通じて新たな共同研究やシーズ導出の可能性を探りました。また、パネル展示に加え、プロジェクトマネージャーの山本啓一特任教授が本拠点の研究開発内容を、臨床開発部門の松尾和浩特任教授が成人結核

に対する新たなブースターワクチンの研究開発を口頭で発表しました。いずれの発表にも連日多数の聴衆の参加がありました。

会期中は多くの企業・研究機関との交流を通じて、新たな関係構築の機会を得ることができ、本拠点の研究成果とビジョンを広く発信する非常に有意義な場となりました。

本拠点では、来年度もBioJapanへの出展を予定しており、ワクチンシーズの導出や共同研究開発のさらなる推進を図ってまいります。

（総合イノベーション創発機構ワクチン研究開発拠点）



来場者に概要を説明する山本特任教授



5拠点機関による合同出展ブース



松尾特任教授によるプレゼンテーション



松尾特任教授の講演を聴講する来場者

「地域みらいキャリア【大学探究コース】」を実施

産学・地域協働推進機構は広報・社会連携本部と連携し、8月から10月までの3ヶ月間、地域の高校生向けに「地域みらいキャリア【大学探究コース】」を実施しました。このプログラムは、1泊2日のキャンパスツアー（キャンパス探究）とオンライン講座（オンライン探究）を通して、大学生活の体験をしながら、「まなび」「進路」について探究するというものです。本学のコースでは「北の大地、多様性溢れる研究・仲間と育む起業家精神」をテーマに、全国各地から5名の高校生が参加し、アントレプレナーシップに関する講義を通じてキャリアについての理解を深めました。

8月5日（火）・6日（水）のキャンパス探究では、参加者が本学に来校し、対面での講義とキャンパスツアーに参

加しました。講義では、大学生起業家による起業の経緯や事業内容に関する講演の後、社会課題を解決するアイデアを考えるワークショップを行い、課題解決や価値創造を体験しました。キャンパスツアーでは、学生の案内で札幌キャンパスを巡り、歴史と豊かな自然を有する本学の魅力を感じたり、研究室見学や学食での昼食などを通して学生生活のイメージを膨らませたりしました。

9月4日（木）～10月30日（木）の全5回のオンライン探究では、アントレプレナーシップに関する教育プログラムを受講した大学生との交流や、自己分析と課題解決を組み合わせたワークショップ「Me & You Work」を実施しました。参加者は、自分の強みや興味・関心について理解を深め、これま

で学んだ課題解決を今後の人生でどのように活用していくかを学びました。

参加者からは「積極的に活動している大学生と交流して刺激を受けた。自分も大学生になったらやりたいことができるように、まずは受験勉強を頑張りたい」「自分の興味関心や強みがどのように繋がっていくのかがわかった。今回学んだことを活かして住んでいる地域を盛り上げたい」といった感想が寄せられました。

産学・地域協働推進機構及び広報・社会連携本部は、今後もこのような取り組みを通じて、地域の将来を担う人材の育成に貢献してまいります。

（産学・地域協働推進機構、
広報・社会連携本部）

実施内容

日 程： [キャンパス探究] 8月5日（火）、8月6日（水）

[オンライン探究] 9月4日（木）、9月11日（木）、10月2日（木）、10月16日（木）、10月30日（木）

場 所： [キャンパス探究]

講義：オープンイノベーションハブ「エンレイソウ」

キャンパスツアー：札幌キャンパス 正門～札幌農学校第2農場

[オンライン探究]

オンライン

対 象：高校2年生5名

協 力：ミチタル株式会社、学生団体 一歩堂



大学構内を説明



古河講堂の紹介



グループワークの様子



発表の様子

「R-DePIN —北海道×地域創生を軸としたWeb3とDePIN活用アイデアソン—」を実施

本学が主幹機関として参画する北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク（HSFC）は、Digital Entertainment Asset Pte.Ltd. Web3.0 DePIN活用プロジェクト等との共催により、9月26日（金）に「R-DePIN —北海道×地域創生を軸としたWeb3とDePIN活用アイデアソン—」を開催しました。

本イベントは、「北海道の未来をもっとワクワクさせたい」という想いのもと、DePIN（分散型物理インフラ）と呼ばれるブロックチェーン技術を地

域創生に応用し、地域の課題解決や活性化に繋がる「具体的で実行可能なアイデア」を生み出すことを目的としています。

当日は、道内の自治体職員、企業関係者、そして本学学生など、北海道の現状に課題意識を持ち、地域創生に積極的に取り組みたいと考える約30名が参加しました。「北海道のリアルな課題」をテーマに、参加者はチームに分かれて活発な議論を展開し、学生も社会人も同じ「地域創生の実験場」に立って、それぞれの視点から課題を分析

し、Web3技術を活用した具体的な解決策を形にしました。また、アイデアソン終了後には交流会も開かれ、参加者同士が新たな出会いやつながりを得る貴重な機会となりました。

産学・地域協働推進機構は、今後もこうした多様なセクターとの連携を通じて、アントレプレナーシップ教育を推進し、北海道の未来を担うイノベーション創出に貢献してまいります。

（産学・地域協働推進機構）

実施内容

日 程：2025年9月26日（金）13:00～17:30

場 所：オープンイノベーションハブ「エンレイソウ」

対 象：北海道内の自治体職員、企業関係者、学生

共 催：Digital Entertainment Asset Pte.Ltd. Web3.0 DePIN 活用プロジェクト、北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク（HSFC）、一般社団法人日本DX地域創生応援団、三菱電機株式会社

「DEMOLA HOKKAIDO 2025 2nd Batch ファイナルデモンストレーション」を実施

産学・地域協働推進機構スタートアップ創出本部は、10月5日（日）に「DEMOLA HOKKAIDO 2025 2nd Batch」の最終発表の場である「ファイナルデモンストレーション」を実施しました。

DEMOLAはフィンランド発の産官学連携イノベーション創出プラットフォームであり、世界16ヵ国、60大学以上が参加している国際的な企業課題解決ネットワークです。学生と企業担当者が一緒にチームを組み、企業のリアルな課題（ケース課題）解決に取り組むのが特徴です。2018年から日本では初めて本学が導入し、約8年間かけて45社52課題に取り組む活動を展開してきました。

今回は総合商研株式会社及び日産東京販売ホールディングス株式会社にご参加いただき、それぞれのケース課題

が出題されました。

総合商研株式会社からは「食体験をアップデート」というテーマで、タイムパフォーマンスやコストパフォーマンスといった価値観が広まる現代において、人々にとって豊かな食体験は何かという課題が、日産東京販売ホールディングス株式会社からは「"走幸"を求める新たな公式」というテーマで、変革期を迎える自動車業界において、自動車に関わる人を幸せにするためには、総合モビリティ企業としてどのように新たな価値を生み出すことができるかという課題が提示されました。

参加者は8月から約2か月をかけてこれらの課題を解決するためのアイデアの創造に取り組み、当日はその集大成として各学生チームから発表が行われました。

参加した学生からは「最終発表まで

大変だったけれどやり切った。（創造したアイデアが実際に採用されることを）信じて結果を待ちたい」「行き詰まることも多かったけれど、チームメンバーと協力して乗り切ることができた」といった感想が寄せられました。また参加した企業の担当者からは「学生さんたちの豊かな発想に驚かされた。普段働いている中では思いもつかないようなアイデアだったので、新鮮で楽しく聞くことができた」といった声がありました。

産学・地域協働推進機構は、今後もアントレプレナーシップ教育を通じて、地域の将来を担う人材の育成に貢献してまいります。

（産学・地域協働推進機構）

実施内容

日程：2025年10月5日（日）
（DEMOLA HOKKAIDO 2025 2nd Batchの期間：8月9日（土）～10月5日（日））
会場：フード&メディカルイノベーション国際拠点（FMI）
主催：産学・地域協働推進機構
参加企業：総合商研株式会社、日産東京販売ホールディングス株式会社
対象：大学生・大学院生12名



最終発表の様子



質疑応答の様子



「総合商研チーム」の集合写真



「日産東京販売ホールディングスチーム」の集合写真

産学・地域協働推進機構が「北海道大学新技術説明会」を開催

国立研究開発法人科学技術振興機構と産学・地域協働推進機構は、10月16日（木）にオンライン形式で「北海道大学新技術説明会」を開催しました。

本説明会は、産学・地域協働推進機構が主催し、本学が保有する特許技術シーズを紹介することで、事業化や共同研究を希望する企業とのマッチング

を図ることを目的としています。研究者はそれぞれの技術について、実用化の展望を交えながら計11件の発表を行いました。聴講の申し込みには600名を超える関心が寄せられ、当日も多数の方々にご聴講いただきました。また、アーカイブ配信も行われ、申込者は開催後2週間にわたり視聴が可能です。

あったことから、多くの方々に技術内容を届けることができました。

今後は、イベントを通じて引き合いのあった企業に対し継続的なフォローを行い、技術移転活動のさらなる推進を図ってまいります。

（産学・地域協働推進機構）

発表課題

- | | |
|-------------------------------------|--------------------------|
| 1. 「セルロース分解物を用いた新規ポリマー材料の合成」 | 工学研究院 助教 リ ホウ |
| 2. 「二酸化マンガンの極小ナノ粒子化技術を開発」 | 理学研究院 准教授 小林弘明 |
| 3. 「機能性脂質ナノ粒子の開発と標準粒子及び長鎖遺伝子導入への応用」 | 工学研究院 准教授 真栄城正寿 |
| 4. 「非可食性バイオマスの微生物共培養系を用いたPHAの産生」 | 農学研究院 准教授 高須賀太一 |
| 5. 「マコンプ由来グルコシルトランスフェラーゼ阻害用組成物」 | 水産科学研究院 准教授 熊谷祐也 |
| 6. 「無機二次元材料で実現する高耐久・高性能センサ」 | 工学研究院 教授 島田敏宏 |
| 7. 「放射線の種類とエネルギーを簡便な検出器で正確に判別する」 | アイソトープ総合センター 技術専門職員 阿保憲史 |
| 8. 「陽子線音響技術で実現する陽子線がん治療の高精度化」 | 工学研究院 教授 松浦妙子 |
| 9. 「遺伝子増幅手法の最適化で網羅的な寄生虫検査を実現」 | 人獣共通感染症国際共同研究所 助教 杉 達紀 |
| 10. 「簡便な重合のみでフォトニック材料を作製する技術」 | 先端生命科学研究院 准教授 野々山貴行 |
| 11. 「ワイン搾りかすを活用した農作物凍霜害防止剤」 | 農学研究院 講師 実山 豊 |

「Save the Ocean in 函館」イベントを開催

産学・地域協働推進機構スタートアップ創出本部は、10月18日（土）・19日（日）の2日間、「Save the Ocean in 函館」イベントを開催しました。本イベントは、海洋生態系への理解を深め、持続可能な海の資源活用について考え、事業化を検討することを目的としており、函館地域の大学生や社会人18名が参加しました。

1日目は、函館厳島神社や旧棧橋（東浜棧橋）、箱館丸、函館どつくレンガ倉庫などを訪問し、人々がどのように海と関わり街を作ってきたのかを学びました。参加者同士の意見交換も活発

に行われ、海と人とのつながりについて多角的な視点で考える時間となりました。

2日目は、前日の学びを広く共有するトークセッションを実施しました。水産学部3年の黒岩夕綺さん、イベントに協力いただいた、食に関する教育、啓発、調査を行うイタリア発の団体「Future Food Institute」のアレッサンドロ・フスコ氏が登壇し、海の持続可能性や今回の気づきについて語りました。会場には教育関係者、地域住民、高校生・大学生など多くの方が集まり、熱心に耳を傾けていました。

参加者からは「海と人間の関係性や歴史的背景に根ざした想いを深く認識する機会となった」「自分が住んでいる地域に潜む『当たり前』に感動した。全ての建築物にはきっと、作った人や関わった人の想いがあるのだと感じた」といった感想が寄せられました。

今後も地元企業や学生とさらに関係を深め、充実した体験型イベントの開催に向けて取り組んでまいります。

（産学・地域協働推進機構）

実施内容

日 程：2025年10月18日（土）・19日（日）

訪問先：函館厳島神社、旧棧橋（東浜棧橋）、箱館丸、函館どつくレンガ倉庫、函館漁港

会 場：シエスタハコダテ

対 象：大学生、社会人 18名

主 催：産学・地域協働推進機構

協 力：Future Food Institute

運 営：株式会社Roots



函館厳島神社視察の様子



箱館丸視察の様子



函館どつくレンガ倉庫視察の様子



トークセッションに登壇するアレッサンドロ氏

「まちなかENGLISH QUEST」を実施

産学・地域協働推進機構スタートアップ創出本部は、中学生・高校生向けアントレプレナーシップ教育イベント「まちなかENGLISH QUEST」を開催しました。10月25日（土）は中学生向け、26日（日）は高校生向けに開催し、計171名の参加者が集まりました。参加者は本学の留学生を中心とした多国籍のイングリッシュスピーカーとチームを組み、広大な北海道大学構内を舞台に、英語でコミュニケーションを取りながら様々なミッションに挑戦し

ました。国籍や文化の違うメンバーと協力して課題を達成するプロセスを通じて、参加者は創造性や挑戦心、チームワーク、リーダーシップといったアントレプレナーシップを育みました。

参加者からは、「初めて出会ったチームメンバーやイングリッシュスピーカーと英語でコミュニケーションが取れるか自信がなかったけれど、ミッションに取り組むうちにみんなと仲良くなれた」「仲間と協力して難しいミッションに挑戦していくのが楽しかった。これからも挑戦する機会があったら積極的に飛び込んでみたいと思った。別のアントレプレナーシップのイベントにも参加したい」といった声が聞かれました。

産学・地域協働推進機構は、今後こうした多様な分野や組織との連携を通じて、アントレプレナーシップ教育を推進し、北海道の未来を担うイノベーションの創出に貢献してまいります。

（産学・地域協働推進機構）

実施内容

日 程：2025年10月25日（土）・26日（日）

場 所：農学部講堂、大学構内

参加者：中学生87名、高校生84名

共 催：産学・地域共同推進機構、生活協同組合コープさっぽろ、北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク（HSFC）

運 営：HelloWorld株式会社



参加者の集合写真



ミッションに取り組む様子



イングリッシュスピーカーとの集合写真

「メイブツクエスト」を実施

産学・地域協働推進機構スタートアップ創出本部は、10月25日（土）にアントレプレナーシップ教育イベント「メイブツクエスト」を開催しました。

本イベントは、札幌を舞台に社会課題を解決する新しい「名物」を生み出す体験を通じて、高校生の創造力や協働力、課題解決力といったアントレプレナーシップを育むことを目的としています。

運営は、本学のアントレプレナーシップ教育プログラムを受講した大学生で構成される学生団体 一歩堂が担当し、産学・地域協働推進機構は、ア

ントレプレナーシップ教育の普及と、大学生から高校生へのティーチングリレーの観点から本イベントを開催しました。

当日は、参加した高校生が社会課題の原因を深掘りし、解決策となる「名物」のアイデアを考案しました。次に、そのアイデアをプロトタイプとして形にし、イベント内で顧客役である大学生にインタビューを行い、「名物」に対する意見や感想を収集しました。そのフィードバックをもとにアイデアを改善し、最後に最終発表を行う、一連のプロセスを体験しました。

参加者からは「学校の授業ではなかなかできない体験ができて楽しかった。別のことに挑戦してみたい」といった声が寄せられ、アントレプレナーシップに必要な要素を体験する機会となりました。

産学・地域協働推進機構は、今後もアントレプレナーシップ教育を推進し、北海道の未来を担うイノベーションの創出に貢献してまいります。

（産学・地域協働推進機構）

実施内容

日 程：2025年10月25日（土）10:00～17:00

場 所：フード&メディカルイノベーション国際拠点（FMI）

参加者：高校生14名

運 営：学生団体 一歩堂



グループワークの様子



「名物」のアイデア



参加者の集合写真

ASEAN外交官らが北海道大学を訪問、アントレプレナーシップ教育を紹介

10月27日（月）～29日（水）に、札幌市が設置する「札幌海外企業受入ワンストップ窓口（Sapporo Transnational Expansion and Partnership、通称：STEP）」が主催する「STEP Sapporo ASEAN Co-Creation Week 2025」の一環として、ASEAN各国の外交官4名が本学を訪問しました。

このプログラムは、海外組織と地元企業との連携により、経済活性化を目指す取組の一つとして、北海道・札幌のエコシステムや文化への理解を深めていただくことを目的に実施されたものです。10月29日（水）には、訪問団をフード&メディカルイノベーション

国際拠点に招き、北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク（HSFC）のアントレプレナーシップ教育及びスタートアップ支援について説明を行いました。プログラムでは、大学の取組紹介と意見交換、学生による事業のピッチ、そして交流セッションを行い、ASEAN諸国との国際的なネットワークの構築を目指した活発なディスカッションが展開されました。

ピッチには、武田理熙さん（工学院修士課程1年/株式会社NudgeU）、川手紅梨子さん（国際広報メディア・観光学院修士課程1年/Beeber Global）、堅田一太さん（農学部3年/ミチタル株式

会社）の3名の学生起業家が登壇しました。それぞれが専門分野を生かした事業アイデアを英語で発表し、外交官からは多くの質問や称賛のコメントが寄せられました。学生たちにとっても、自身のアイデアを国際的な視点から見つめ直す貴重な機会となりました。

今回の訪問を通じ、本学のアントレプレナーシップ教育やスタートアップ支援の取組がASEAN諸国にも紹介されました。今後の国際的な連携や学生交流の深化が期待されます。

（産学・地域協働推進機構）

訪問したASEAN各国の外交官

タイ王国：チャワニス・チャワナウォン公使参事官

インドネシア共和国：メリー・アストリッド・インドリアサリ商務部長

ベトナム社会主義共和国：タ・ドク・ミン商務参事官

フィリピン共和国：アルビン・マラシグ第一秘書官・領事



ピッチの様子



交流会の様子



集合写真

シンガポールにおける産学連携と国際協働の推進

11月2日（日）～4日（火）に、寶金清博総長がシンガポールを訪問し、現地の大学・研究機関・企業・政府関係者らと意見交換を行うとともに、本学創基150周年に向けた取組を発信しました。

シンガポールでは近年、食料安全保障や持続可能な食生産に関する関心が急速に高まっており、「Agri-Food Innovation」を国家戦略に掲げ、食料自給率の向上やスタートアップ支援を推進しています。本学は、食・農・環境・エネルギーなどの分野で強みを有し、こうした国際的潮流の中で、アグリフードテック分野などにおける研究成果の国際展開と産学連携を進めています。

3日（月・祝）には、食品・バイオ分野の研究拠点であるシンガポール科学技術研究庁シンガポール食料・バイオ技術革新研究所（A*STAR SIFBI）を

訪問し、持続可能な食品生産や培養脂肪研究などの先端的な取組について説明を受けました。続いて、南洋理工大学（NTU）の産学連携部門やシンガポールアグリ・フードイノベーションラボ（SAIL）を訪問し、アグリフード分野の技術移転やスタートアップ支援の仕組みについて意見交換を行った後、NTU上級副学長（財務担当）のタン・エイク・ナ氏を表敬し、大学経営や体制の構築について意見を交わし、今後の協力促進を確認しました。夕方には、シンガポール市内のOne&Coで「Hokkaido University 150 Initiative」を北海道ASEAN事務所との共催により開催し、寶金総長が英語で「第二の大志（Second Ambitious Challenge）」をテーマに講演しました。講演後のネットワーキングでは、お酒やお菓子などの北大認定ブランド商品を紹介し、参加者との交流を深めました。会場に

は政府関係者、企業、大学・研究機関関係者ら約70名が参加し、本学の国際的な取組やアジアにおける協働の方向性について活発な意見交換が行われました。

また、マリーナベイ・サンズにて4日（火）～6日（木）に開催された「Agri-Food Tech Expo Asia (AFTEA) 2025」に出展し、養殖、海藻など水産に関する先端技術シーズを主に紹介しました。多くの来場者がブースを訪れ、本学の研究力と地域資源を活かした技術に高い関心が寄せられました。

今回の訪問を通じ、創基150周年に向けてアジア地域におけるアグリフードテック分野での連携基盤を一層強化し、研究・教育・産業連携を通じて持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

（産学・地域協働推進機構）



NTUタン上級副学長（左）と寶金総長（右）



「Hokkaido University 150 Initiative」参加者との記念写真



AFTEA出展ブース

米国UMass Amherstと技術職員研修を実施

10月27日（月）～31日（金）に、本学の戦略的国際パートナー校である米国マサチューセッツ大学アマースト校（UMass Amherst, UMA）の技術職員3名を招き、2025年度の技術職員研修を開催しました。本事業は、専門職員（技術職員）の相互派遣とオンライン交流を通し、技術職員のグローバル感覚の醸成、多角化する共通課題に関する海外相談ネットワークの構築、国際共同研究支援体制の強化と、全学へのその効果波及を期待するもので、本学が採択されている「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」の予算支弁の下、企画されました。初回となる今回は、UMAから応用生命科学研究所のジェイムズ・チェンバースUMAニコンイメージングセンター長とデイヴィッド・フォレット先端デジタル設計・製作及びデバイス特性評価担当長、農業・食糧・環境センター/ストックブリッジ農学校のエリザベス・ガロファロ外部連携果実教育員が来訪しました。

3名は、技術連携統括本部の網塚 浩副学長/本部長、佐崎 元技術統括、永井謙芝技術副統括、及び渡辺孝之総長補佐らとの面会に加え、双方向の取

り組みとして北大側のカウンターパートとなる、遺伝子病制御研究所の石垣聡子技術専門職員、工学研究院の鈴木啓太技術専門職員、北方生物圏フィールド科学センターの増茂弘規技術専門職員、国際連携推進本部の植村妙菜学術主任専門職と学内各所を視察し、キャンパス及びフィールドで働く技術職員と交流を深めました。

星野洋一郎教授と訪問した余市果樹園では、りんごの収穫を体験し、米国東海岸のりんご生育のトレンドや害虫防除の話が弾み、植物園では、ガロファロ氏から踏み固められた地面を柔らかくし、樹木の根圏成長を助ける低廉な手法が提案されました。キャンパス内ではチェンバース氏の希望に基づきニコンイメージングセンター、遺伝子病制御研究所、総合研究基盤連携センター、工学団地を訪問し、特に試作ソリューションや機械工作室の技術職員とは、フォレット氏に取りまとめるUMAの類似のサービスに関して、本学の部局や研究分野では、想像できないような受注内容があることや、半年以上間隔を空けて追加相談がある場合にも備えて、依頼品サンプルを集めていること等について活発な情報共有が

行われました。

教員以外の専門職員は終身雇用制ではなく、無期限ではあるが継続雇用が保証されている訳ではないUMAの人事制度も踏まえ、技術継承制度や外部認証による各職員のモチベーション担保とキャリア形成、公立大学規模の研究インフラ支援で外貨を獲得する流れ等、今後多くの事柄について情報交換と互恵的な交流が成り立つことを、双方が実感した5日間となりました。

技術職員6名がそれぞれの仕事について紹介するプレゼンテーションには学内から30名程が集まり、ネットワーキングランチには訪問先以外の技術職員も顔を出し、技術職員間における他分野業務への関心の高さと、類似職による交流の機会が求められていることがうかがえました。2026年6月には、UMAで今回の研修と対をなす研修が行われるほか、同年秋に、同じく戦略的国際パートナー校である豪州メルボルン大学の技術職員を北大に迎えて、同大学との研修を行う予定です。

（国際連携推進本部、技術連携統括本部、研究推進部研究支援課）



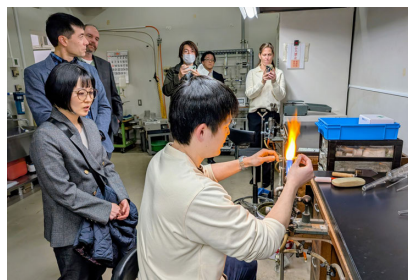
UMAの3名



両校参加者との集合写真



果樹園訪問



工学ガラス工作室

北海道大学×STV SDGsデー2025を開催

11月3日（月・祝）、サステナビリティ推進機構と札幌テレビ放送株式会社（STV）は、持続可能な社会の実現に向けた取組を広く発信するイベント「北海道大学×STV SDGsデー2025」を開催しました。会場となった学术交流会館と総合博物館には、多くの来場者が集まり、学びと体験を通じてSDGsの重要性を考える一日となりました。

オープニングイベントとして、学术交流会館にて、総合博物館の小林快次教授による講演「最新恐竜研究2025」を行いました。講演はSTVの急式裕美解説委員が司会進行を務めました。講演には事前申込者の中から抽選で選ばれた親子など266名が参加し、アラスカ、モンゴル、ウズベキスタンで実施

した最新の発掘調査の成果や、地球温暖化の現状について熱心に耳を傾けました。特に、今年モンゴルで行われた発掘調査において、貴重な「竜脚類の頭骨」の発掘に成功しており、発掘現場の様子を紹介する映像が流れると、会場は大きな興奮に包まれました。

また、総合博物館では、恐竜、遺跡、岩石・鉱物、植物をテーマにした4つのワークショップも開催しました。約80名の参加者は普段触れる機会の少ない本物の化石や貴重なレプリカに触れたり、札幌キャンパス内の樹木を観察したりしながら、専門家による講義を受け、自然科学の奥深さを体感しました。

さらに、館内を巡る「探検スタンプ

ラリー」には約660名が参加しました。収蔵品を見学しながらスタンプを集める楽しい企画で、子どもから大人まで笑顔があふれました。カフェ「ぼらす」では恐竜にちなんだ限定メニューも登場し、学びと遊びが融合した特別な一日となりました。

今回のイベントは、気候変動や持続可能性といった課題について、楽しみながら考えるきっかけを提供するものです。サステナビリティ推進機構は、今後も企業や地域と連携し、SDGsの推進、人材育成、さらには地域社会の発展に貢献してまいります。

（サステナビリティ推進機構）

概要

日時：2025年11月3日（月・祝）9：30～17：00

会場：総合博物館、学术交流会館、大学構内

主催：北海道大学サステナビリティ推進機構、札幌テレビ放送株式会社（STV）

内容：オープニングイベント「最新恐竜研究2025」（総合博物館 小林快次教授）

ワークショップ

「恐竜の骨を観察しよう！」（総合博物館 小林快次教授）

「遺跡の骨を分析しよう！」（総合博物館 江田真毅教授）

「のぞいてみよう岩石・鉱物の世界」（総合博物館 北野一平助教）

「ガチ観楓会」（総合博物館 首藤光太郎助教）

探検スタンプラリー



オープニングイベントの様子



ワークショップ「遺跡の骨を分析しよう！」の様子



ワークショップ「ガチ観楓会」の様子



スタンプラリーの様子

「北海道大学GHGインベントリ」が「サステナブルキャンパス賞2025」を受賞

北海道大学は、カーボンニュートラルに関する取組「北海道大学GHGインベントリ」が評価され、サステナブルキャンパス推進協議会（CAS-Net JAPAN）主催の「サステナブルキャンパス賞2025」を受賞しました。授賞式は11月8日（土）に開催されました。

サステナブルキャンパス賞は、大学におけるサステナブルキャンパス構築の優れた事例を顕彰する制度で、持続可能な環境配慮型社会の構築に貢献することを目的に、2015年の創設以来毎年本賞の授与が行われています。本学は2015年、2019年、2024年に続き、通算4回目の受賞となりました。

今回評価された「北海道大学GHG

インベントリ」は、本学の温室効果ガス排出量に関するデータを体系的にとりまとめ、国際基準に準拠した信頼性の高いデータベースを構築したものです。対象はCO₂、CH₄、N₂O、HFCs、PFCs、SF₆、NF₃の7種類の温室効果ガスで、本学の全拠点・全活動を網羅しています。この取組により、大学全体の排出状況を包括的に把握し、今後の削減計画や実行フェーズに活用できる基盤が整いました。

審査講評では、国内の大学に先駆けて包括的なインベントリを策定し、学内のマネジメント部門と連携して精緻化を進めた点が高く評価されました。また、この仕組みは本学に留まらず、

他大学や企業にも適用可能であり、社会への波及効果が期待されるとされています。今後は、計画立案やアクション実行フェーズでの効果検証・改善方法など、さらなる成果が期待されています。

本インベントリは、本学ウェブサイトにて本編・概要版・解説動画を公開しておりますので、ぜひご覧ください。

北海道大学は、今後もサステナブルキャンパスの構築に向けた取組を積極的に推進し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

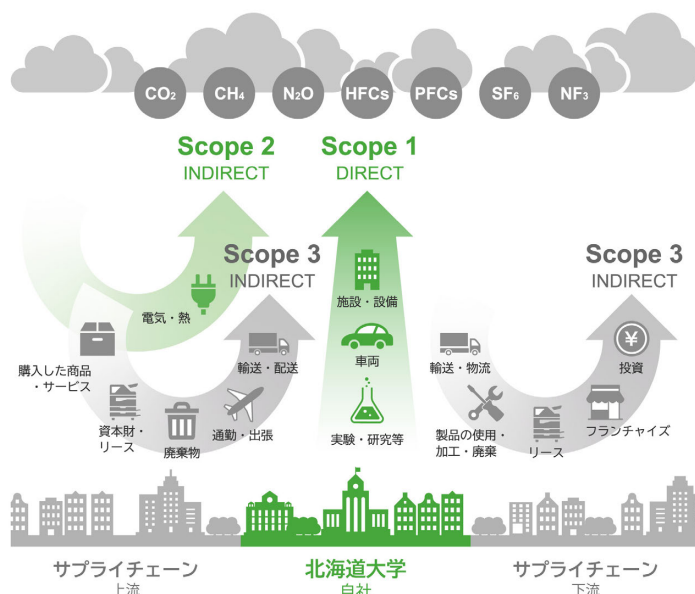
（サステナビリティ推進機構）

発表課題

- ・受賞者：国立大学法人北海道大学
- ・受賞事例：北海道大学GHGインベントリ
- ・審査講評：国内の大学に先駆け、7種類の温室効果ガスGHG（CO₂、CH₄、N₂O、HFCs、PFCs、SF₆、NF₃）を対象に、北海道大学の全拠点・活動を網羅する包括的なインベントリ（温室効果ガス排出・吸収目録）を策定する取組である。他大学でも研究的に検討がされ始めているが、大学マネジメント部門と連携して、学内の全拠点・全活動を対象に、国際基準に準拠した信頼性の高いデータベースを構築し、包括的で信頼性を高める精緻化を図っていることは、学術的にも高く評価できる。北海道大学内に留まらず、他大学や企業にも適用可能な内容であり、社会への波及効果も大いに期待でき、サステナブルキャンパス賞に相応しい取組である。今後は、計画立案・アクション実行フェーズでの効果検証・改善方法などの具体的成果を大いに期待したい。
- ・事例詳細（北海道大学サステナビリティ推進機構ウェブサイト）
<https://www.sustainability.hokudai.ac.jp/repository/ghg/>
- ・表彰制度の詳細（CAS-Net JAPANウェブサイト）：
<http://casnet-japan.org/free/award>



サステナブルキャンパス賞の賞状



北海道大学の温室効果ガス排出の全体像
（参考資料：WBCSD, WRI. GHG Protocol: Corporate Value Chain (Scope 3) Standard. 2011）

本学がホスト校となりCAS-Net JAPAN年次大会2025を開催

11月7日（金）・8日（土）の2日間、一般社団法人サステナブルキャンパス推進協議会（CAS-Net JAPAN）とサステナビリティ推進機構との共催による「CAS-Net JAPAN年次大会2025」を開催しました。本大会は、「サステナブルキャンパスがつなぐ知と実践」をテーマに掲げ、全国の大学の教職員、学生及び民間企業の関係者が一堂に会し、持続可能な社会の構築に向けた知見と実践を共有する場として企画したものです。

本学が本大会のホスト校を務めるのは、平成26年以来2回目で、サステナビリティ推進機構と学内外の関係者による協力体制のもと、開催しました。当日は、全国から91名の教職員、学生及び民間企業の方々が参加しました。

初日は、小雪が舞う生憎の天候の中、キャンパスツアーを実施しました。参加者は、北キャンパス総合研究棟8号館（ICReDD棟）、北キャンパス屋外パブリックスペース及び医学部百年記念館を見学することで、持続可能性に配慮したキャンパス整備の現場を体感していただきました。

続いて、北海道ワイン教育研究センターにて「サステナブルキャンパス賞2024」受賞記念レクチャーを行いました。「キャンパスのエクステンションとは？」と題した講演では、前北海道

大学准教授で一般社団法人新渡戸遠友リビングラボ理事長の小篠隆生氏及び工学研究院の小澤丈夫特任教授が、ワイン教育研究センター棟の改修概要、研究林の活用及び大学の社会共創に関する取組について講演を行いました。

レクチャー終了後には、ワイン教育研究センター棟及びワイン貯蔵庫を見学し、引き続き同センターにてレセプションを行いました。レセプションでは、参加者間の交流と情報交換が活発に行われました。

2日目は、学术交流会館にて全体シンポジウムを開催しました。開会にあたり、朴 恵淑CAS-Net JAPAN代表理事による挨拶が行われ、続いて文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部計画課整備計画室の真保 洋室長による来賓挨拶（録画）が披露されました。

基調講演では、森 太郎総長補佐/工学研究院教授が講演（録画）し、北欧の大学におけるリビングラボ*の先進的な取組事例を紹介するとともに、リビングラボをキャンパスマネジメントに取り入れる可能性について講演を行いました。

また、招待講演として、エア・ウォーター株式会社、株式会社フラワーコミュニケーションズ、北海道ガス株式会社の各社より、カーボンニュートラル達成に向けた先端的な取組や地域連

携の事例が紹介されました。

午後からは事例発表分科会を開催し、サステナブルキャンパス部門及び学生活動部門に分かれて、各大学や学生団体による実践事例の発表が行われました。

その後、「サステナブルキャンパス賞」発表及び講演が行われ、続いて「サステナビリティレポートアワード」の表彰式が実施されました。本学は「サステナブルキャンパス賞」大学運営・地域連携部門において、最優秀賞となる「サステナブルキャンパス賞」を受賞しました（32ページ参照）。最後に、横田 篤理事・副学長による閉会挨拶をもって、本大会は盛会裏に終了しました。

本大会は、持続可能な社会の構築に向けた大学キャンパスの役割を再確認するとともに、参加者間の連携を深める貴重な機会となりました。今後も当機構は、CAS-Net JAPAN及び全国の他大学と連携し、サステナブルキャンパス構築を推進していきます。

*リビングラボ 民間企業、行政及び大学等が、実際の生活空間を研究開発の場として、社会課題の解決や新たなイノベーションを共創する取組。

（サステナビリティ推進機構）



全体シンポジウム参加者の集合写真



北海道ワイン教育研究センターでのレセプション集合写真



キャンパスツアーの様子（医学部百年記念館）



森総長補佐による基調講演（録画）の様子

■ 部局ニュース

低温科学研究所の青木 茂教授が第67次南極地域観測隊の隊長に就任

低温科学研究所の青木 茂教授が、第67次南極地域観測隊長に就任しました。青木教授は第61次に続き、2回目の隊長就任となります。

青木教授を隊長とする観測隊は、12月4日（木）に日本を出発し、豪州フリーマントルにて南極観測船「しらせ」に乗船し、南極昭和基地へ向かい

ます。

低温科学研究所からは、青木教授のほか、4名の教職員及び研究員が南極地域観測隊として、現地で観測等を行います。

11月14日（金）には、明治記念館（東京都港区）にて、「南極地域観測隊員及び『しらせ』乗組員の壮行会」

が開催され、青木教授からは、「難しいミッションになりますが観測隊としてしらせ乗員がワンチームで成功に導きます」という挨拶がありました。

青木教授率いる第67次南極地域観測隊の活躍に、どうぞご注目ください。

（低温科学研究所）



壮行会にて挨拶をする青木教授



低温科学研究所関係の南極地域観測隊メンバー

「よりよくくらす会議」を開催―脱炭素を軸に企業・自治体・大学が語る対話の場

10月30日（木）、学術交流会館で、教養深化プログラム生による自主企画イベント「よりよくくらす会議―未来を考環（かん）がえる企業×まち×学生―」を開催し、脱炭素や地域づくりをテーマに、ブース展示やトークセッションを通じて来場者と対話しました。

本イベントは、北海道大学と札幌市環境局が共催した「未来志向ワークショップ」での学びをきっかけに、大学院生が自ら問いを立て、企画を考案し、社会との接点を持つ機会を創出する場として開催しました。実行メンバーは、未来志向ワークショップ学生事務局「くらす委員」の江口佳穂さん（文学院博士後期課程2年）、大谷梨乃さん（文学院博士後期課程3年）、小島翼さん（環境科学院修士課程2年）、幸一尋さん（文学院修士課程2年）の4名です。事務局の学生は協働してイベントの企画から、出展者の打診まで自ら行い、企業や自治体と連携しながら、社会課題を自分事として話し合う対話の場を実現しました。

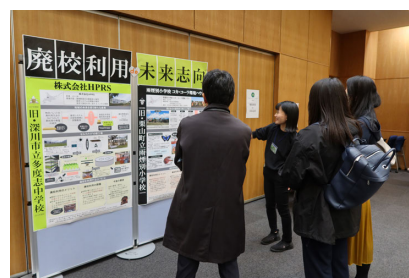
当日は、札幌市環境局、北海道ガス株式会社、川島旅館、サステナビリティ推進機構によるブース展示が行われ、学生企画「廃校利用de未来志向」では、廃校を活用した脱炭素の取り組みを紹介しました。トークセッションでは、札幌市環境局の富士本雄大氏、北海道ガス株式会社の吉藤千織氏、川島旅館の松本美穂氏、Cozy Space Boostersの河村直記氏がパネリストと

して登壇し、くらす委員の小島さんのファシリテーションのもと、「サステナビリティ、それぞれの最前線」「コストと責任どこで折り合う？」「今後ヒーローたりえる人or力とは？」の三つのテーマで議論が展開され、それぞれの観点から、経済性と地域貢献の両立や未来の暮らしについて語りました。会場からの質疑応答では、最近の興味深い取り組みや事例、特に北大生に期待することなども話題に上がり、会場は活発な雰囲気に包まれました。

来場者からは、「廃校利用のブースの説明が丁寧で勉強になった」「環境によいことは本当に我々にとって意味があるのかという問いが生まれ、自分なりの答えを見つけることができた」「定期的に開催してほしい。他の企業の話も聞いてみたい」などの声が寄せられ、学生が創り出した場が、来場者に新しい視点や学びを提供したことがうかがえました。

ご来場者の皆様、ご協力いただいた札幌市環境局、北海道ガス株式会社、川島旅館、Cozy Space Boostersの皆様にも深く御礼申し上げます。学生の企画力と行動力が、企業や自治体との新しい対話の場を切り拓きました。この場で交わされた多様な視点やアイデアは、地域づくりや脱炭素社会に向けた新たな取り組みへとつながっていくことが期待されます。

（文学研究院）



学生による企画展示「廃校利用de未来志向」



企業ブースの様子



トークセッションの様子



学生事務局くらす委員と札幌市環境局、北海道ガス株式会社、サステナビリティ推進機構の担当者

実施内容

日 程：2025年10月30日（木）15:00～18:00

場 所：学術交流会館

対 象：本学学生、一般市民

主 催：北海道大学未来志向ワークショップ学生事務局

協 力：札幌市環境局、北海道大学教養深化プログラム、北海道大学サステナビリティ推進機構

学生事務局note：https://note.com/mirai_shiko

法学研究科・法学部が札幌司法書士会と連携協定を締結

11月20日（木）、法学部3階センター会議室において、法学研究科・法学部と札幌司法書士会は、双方の活動の充実・発展に資することを目的とした連携協定書の調印式を実施しました。

調印式には、札幌司法書士会から、下村尚也会長、安東朋美副会長、巽亮仁広報委員会担当理事、長峰啓介法教育推進委員会担当理事、高橋雅幸研修所所長が、法学研究科から、佐々木雅寿研究科長、曾野裕夫副研究科長、桑原朝子附属高等法政教育研究センター長、岡野 賢法学研究科事務長が出席し、下村会長と佐々木研究科長が協定書に調印しました。

法学研究科、札幌司法書士会ともに、外部団体と連携協定を締結することは初の試みとなります。

本協定のもと、双方は、主に、以下

の4事項について協力を深めます。第1は、法学研究科の研究に関する事項で、双方が参加する研究会の開催や共同研究の実施が期待されます。第2は、法学研究科の教育に関する事項です。司法書士が講師を務める司法書士の専門分野に関する授業科目の開設も将来的に可能となり、司法書士のリカレント教育の場として大学院が活用される可能性を高めます。第3は、札幌司法書士会の研修に関する事項で、法学研究科から講師を派遣したり、研修のために大学の施設を利用したりすることが、これまで以上に行いやすくなります。第4は、札幌司法書士会の活動等に関する広報についての事項です。札幌司法書士会では法学研究科の卒業生も多く活躍されていることからわかるように、司法書士という職業は、法学

研究科の大学院生と学部生にとって、魅力のある職業の一つです。そこで、法学研究科の大学院生と学部生に、キャリア教育の一環として、司法書士の業務内容や仕事の魅力などを説明する機会を設け、次世代の法律実務家としての司法書士を育成することに寄与することも可能となります。

本協定に基づいて、相互協力をより深めることにより、法の研究と実務の両面から、地域社会の法的な課題解決により多く貢献し、その結果、多様性を尊重する地域社会の形成への貢献をさらに進めることが可能となると考えられます。

（法学研究科・法学部）



協定書に調印した佐々木法学研究科長（右）と下村会長（左）

会計専門職大学院で日本内部監査協会と共催セミナーを開催

会計専門職大学院では、10月30日（木）に人文・社会科学総合教育研究棟において、「北海道大学会計専門職大学院・日本内部監査協会共催セミナー」を開催しました（後援：証券会員制法人札幌証券取引所）。Zoomでの同時配信も行い、対面参加者約30名、オンライン参加者約500名となり、多くの方が参加しました。対面参加の方は、北海道内だけでなく全国から内部監査・ガバナンス担当者や会計専門家が札幌に集いました。

近年、ビジネスと人権に関する国際的な関心の高まりを背景として、それ

に対する取組が求められるようになり、企業の活動や財務へも大きな影響を及ぼしています。本セミナーにより、日本企業における法令遵守や狭義の人権対応だけではカバーしきれない人権侵害リスクについて、国際規範である国連「ビジネスと人権に関する指導原則」の観点から、コーポレート・ガバナンスや内部監査を考える機会になったかと思います。北海道内企業の持続的発展の機運を高め、道内経済の躍進に少しでも貢献できればという思いで企画しました。

セミナーは、春日部光紀会計専門職

大学院長による挨拶に続いて、あおぞら債権回収株式会社常勤社外監査役の高畑 伸氏による講演「ビジネスと人権に関するコーポレート・ガバナンスと内部監査」が行われました。時宜を得たテーマで、参加者の関心も非常に高かったのが印象的でした。

会計専門職大学院では、今後もこうした催しを通じて、地域社会における会計・監査実務の発展に貢献していきたいと考えています。

（経済学院・経済学研究院・経済学部）



会場の様子



講演する高畑氏

経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センターがシンポジウムを開催

経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センター（REBN）では11月1日（土）に、「北海道の食を考える—魅力・課題・そして可能性—」と題して、シンポジウムを開催しました。悪天候にもかかわらず、70名もの参加がありました。

今年度のシンポジウムは、10月末に完成した書籍『人を呼ぶ北海道の食—魅力・可能性・そして課題』の刊行を記念するもので、一般財団法人北海道開発協会との共催で行われました。この書籍は、令和5年に一般財団法人北海道開発協会 開発調査総合研究所内に設置された「北海道の活性化に貢献してきた＜食＞に関する研究会」にて企画、構成、執筆、編集されたものです。REBN研究員である経済学研究院の教員1名が当該研究会にメンバーとして参加していたこともあり、一般財団法人北海道開発協会と共同開催に至りました。

前半の講演会では、長らく料理雑誌の編集に携わるとともに、日本各地で

多数のレストランをプロデュースしてきた料理通信顧問の齋藤 壽氏、フードライター&ファシリテーターとしてご活躍の深江園子氏、農と食のライターであり農学院の大学院生でもある市村敏伸氏の3氏をお招きし、会が進行しました。

まず齋藤氏より「人を呼べる食の条件：北海道のアドバンテージとディスアドバンテージ」と題する基調講演をいただきました。真狩村のオーベルジュ「マッカリーナ」設立や、ザ・ウィンザーホテル洞爺内のレストラン選定に関与されたご経験などに基づき、北海道の食についてとても興味深いお話をいただきました。次に深江氏より「料理学会が起こす小さな熱狂」と題して、氏が深く関与し函館で毎年開催されてきた「世界料理学会」を中心とするお話をいただきました。市村氏からは「北海道の食を支える生産者と6次産業化」と題して、黒松内町のグラッドニー牧場における肉用牛の通年放牧の事例を中心とする内容をお話

しいいただきました。

これら北海道の食に関する多面的なご講演を受け、後半のパネルディスカッションでは、経済学研究院の平本健太教授/REBNセンター長のモデレーションによって、改めて北海道の食の魅力と可能性、問題点や課題、そしてあり得べき将来像などに関する活発なやり取りが行われました。北海道の過疎化の問題に食が貢献できる可能性や、エシカルでサステナブルな食のありようなど、本質的で有意義な議論が展開されました。

今回のシンポジウムをきっかけに、北海道の食、とりわけ「人を呼ぶことができる北海道の食」の可能性に対する関心がますます高まることを期待するとともに、本研究センターでは、今後も折に触れて「北海道と食の関係」について色々な視点から考察していきます。

（経済学院・経済学研究院・経済学部）



講演する齋藤氏（左）・深江氏（中央）・市村氏（右）



パネルディスカッションの様子

経済学部が札幌国税局長の特別講演会を開催

経済学部は、11月14日（金）に札幌国税局の山下和博局長による「税制と税務行政」と題する特別講演会を人文・社会科学総合教育研究棟で開催しました。

講演では、最初に日本の財政構造の現状として、税収の推移、公債残高の状況、財政悪化の原因、そして、現在の社会保障支出の規模、社会保障以外の支出規模、これらを賄う税収の規模についての国際比較が説明されまし

た。次に、日本の税制の概要として、税金の分類や税収の推移、企業会計上の利益と法人税法上の所得の相違、消費税について、クイズ形式での学生とのやり取りを交えて、詳細に説明されました。

続いて、税務行政の概要及び税務行政の将来像については、国税査察官の活躍を描いた国税庁の動画を使った説明や、AIデータ分析の活用事例の紹介などによって、国税専門官の仕事や、

その将来性の理解の一助となるものでした。学生にとっては、将来の進路を考える上で非常に有用な情報であったと考えます。

経済学部では、学生が社会問題に関心を抱き、将来を考える良い機会になることを期待し、今後も様々な講演会を企画していく予定です。

（経済学院・経済学研究院・経済学部）



講演の様子



講演する山下局長

医学部にネーミングライツ施設「ほくやく・竹山 講堂」が誕生

北海道大学と株式会社ほくやく・竹山ホールディングス（本社：札幌市、代表取締役：眞鍋雅信）は、大学施設のネーミングライツ（施設命名権）取得に関する「国立大学法人北海道大学ネーミングライツに関する契約書」を締結し、2025年11月1日から2030年10月31日まで、札幌キャンパス医学部第2講堂（以下「本施設」という。）の愛称は「ほくやく・竹山 講堂」となりました。医学部施設としては、2例目となるネーミングライツ施設です。

株式会社ほくやく・竹山ホールディングスは、医薬品卸売業の「ほくや

く」と医療機器卸売業の「竹山」を中核とする北海道に根ざした「地域包括ヘルスケア企業」です。医療（保険薬局事業を含む）・介護を主軸に情報システム開発などの事業も展開し、創業から100年以上にわたり北海道民の健康増進に尽力されてきました。この度の本施設の愛称である「ほくやく・竹山 講堂」には、北海道をはじめとする我が国の医療の先端を志す医学生に対し、その学業の充実を願う細やかなる祈りが込められています。

11月4日（火）に開催した記念式典では、株式会社ほくやく・竹山ホール

ディングス/株式会社ほくやくの眞鍋雅信代表取締役社長と田中伸哉医学研究院長の挨拶の後、眞鍋代表取締役社長、株式会社竹山の竹山茂樹代表取締役、田中医学研究院長及び矢部一郎副医学研究院長によるテープカットが行われ、盛況のうちに終了しました。

今後、本学と株式会社ほくやく・竹山ホールディングスは連携して、「ほくやく・竹山 講堂」の愛称が多くの学生に親しまれ定着するよう努めてまいります。

（医学院・医学研究院・医学部）

ネーミングライツの概要

1. ネーミングライツ・パートナー
法 人 名：株式会社ほくやく・竹山ホールディングス
本社所在地：札幌市中央区北6条西16丁目1番地5
代 表 者：眞鍋雅信
2. 対象施設 札幌キャンパス医学部第2講堂（延べ床面積：217㎡）
3. 愛称名 ほくやく・竹山 講堂
4. 契約期間 2025年11月1日～2030年10月31日



（左から）株式会社竹山 竹山代表取締役、株式会社ほくやく・竹山ホールディングス/株式会社ほくやく 眞鍋代表取締役社長、田中医学研究院長、矢部副医学研究院長によるテープカット

医学部にネーミングライツ施設「なの花 kitchen」が誕生

北海道大学と株式会社なの花北海道（本社：札幌市、代表取締役：大倉康）は、大学施設のネーミングライツ（施設命名権）取得に関する「国立大学法人北海道大学ネーミングライツに関する契約書」を締結し、2025年11月1日から2030年10月31日まで、医学部食堂（以下「本施設」という。）の愛称が「なの花 kitchen」となりました。医学部施設としては、3例目となるネーミングライツ施設です。

株式会社なの花北海道は、地域薬局事業や医薬品ネットワーク事業などを

展開する株式会社メディカルシステムネットワークのグループ会社として、道内で約130店舗の「なの花薬局」を運営しています。多職種連携を通じて、医療人の専門性向上に向けた取り組みに力を入れており、誰もが自分らしく、安心して暮らしていくための医療インフラを構築し、「まちのあかり」として健やかな暮らしに貢献されています。

11月4日（火）に開催した記念式典では、株式会社なの花北海道の大倉 康代表取締役社長と田中伸哉医学研究院

長の挨拶の後、株式会社メディカルシステムネットワークの田尻稲雄代表取締役社長、株式会社なの花北海道の大倉代表取締役社長、田中医学研究院長及び武富紹信副医学研究院長によるテープカットが行われ、盛況のうちに終了しました。

今後、本学と株式会社なの花北海道は連携して、「なの花 kitchen」の愛称が多くの教職員・学生に親しまれ定着するよう努めてまいります。

（医学院・医学研究院・医学部）

ネーミングライツの概要

1. ネーミングライツ・パートナー
法人名：株式会社なの花北海道
本社所在地：札幌市中央区北10条西24丁目3番地AKKビル3階
代表者：大倉 康
2. 対象施設 札幌キャンパス医学部食堂（延べ床面積：217㎡）
3. 愛称名 なの花 kitchen
4. 契約期間 2025年11月1日～2030年10月31日



（左から）株式会社なの花北海道 大倉代表取締役社長、株式会社メディカルシステムネットワーク 田尻代表取締役社長、田中医学研究院長、武富副医学研究院長によるテープカット

保健科学研究院公開講座「ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ」を開催

保健科学研究院では毎年11月3日の文化の日に、「ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ」というテーマのもと、公開講座を開催しています。本年も3名の講師陣が各々専門とする研究をわかりやすく紹介し、48名の方が参加し、盛会のうちに終了しました。

はじめに、西端友香講師が「暴走する好中球を止めろ！～ANCA関連血管炎と新しい治療薬の可能性～」と題して、ANCA関連血管炎は自己免疫疾患の一つで体を守るはずの好中球が暴走する仕組みと、それを抑える新たな治療薬候補の研究成果について講演しま

した。

続いて、我妻 慧准教授が「体の機能を視る核医学検査ってなんだろう？」と題して、放射性物質を使って体の機能や病気の特性の画像を撮ることができる核医学検査について講演しました。

最後に、野路武廣教授が「いのちを守る消化器外科～がん・救急・未来への課題、現役外科医が本音で語る～」と題して、消化器外科医が担う「がん治療」と「救急医療」という二つの大きな役割を、実際の経験を踏まえながら講演しました。

終了後のアンケートでは、勉強になった、わかりやすかった、もっと聞きたかった等々の感想をいただき、さらには、今後取り上げてほしいテーマとして様々なご意見もいただくことができ、参加者の皆様から大変好評を博しました。

今後も、時代を反映するようなテーマや、興味を持って参加いただけるようなテーマを設けて、公開講座を開催してまいります。

(保健科学研究院)



西端講師による講演の様子



我妻准教授による講演の様子



野路教授による講演の様子

令和7年度薬学部成績優秀賞授与式を挙行

薬学部では、11月25日（火）に薬学研究院長室において、令和7年度北海道大学薬学部成績優秀賞授与式を行いました。

この賞は「GPA制度の導入に伴い、学業が優秀な学生を顕彰し、学生の向学心を喚起する」ことを目的として、

平成17年度以降に入学した学部3年次学生を対象として設けられたもので、今回で19回目の授与式となります。

今年度は、学部専門科目の成績が特に優秀な4名が受賞者に選ばれました。

授与式では、市川 聡学部長から表彰状と副賞が受賞者一人ひとりに授与

されました。

今後この賞が本学部学生の向学心をより一層喚起するものとなることを期待しています。

（薬学研究院・薬学部）



成績優秀者と市川学部長（中央）

第45回 あぐり大学「イモはどうやってできる？」を開催

11月1日（土）に、農学部においてあぐり大学を開催しました。あぐり大学は、農学部と北海道新聞編集局が平成26年度から一緒に行っている連続親子講座で、「食と農」について、頭と体を使って学ぶ体験型講座です（農学同窓会後援）。農学部の複数の学科から学生もスタッフとして参加しています。

第45回となる今回は、「イモはどうやってできる？」のタイトルで、志村華子教授（作物生理学）があぐり博士を担当し、特別に藤野介延特任教授（作物生理学）が協力しました。

私たちが普段から色々なお料理やおやつで世話になっているイモですが、イモはどんなふうにできているか知っていますか？イモの中には何が入っているのでしょうか。植物は、なぜイモを作るのでしょうか。今回は、ジャガイモを使って、イモの不思議や芽の不思議について学びました。

最初に、「植物のからだの作り」について、あぐり博士からクイズを交えながら分かりやすく解説がありました。参加者は、植物の体は役割が違う様々な部位からできていることを学び

ました。ジャガイモは「茎」であり、「芽」があることがポイントだと学びました。その後、参加者は顕微鏡を使って「芽」のもとになる「茎頂分裂組織」やでんぷんを貯蔵しているアミロプラストを観察しました。

参加した子どもたちからは歓声があがる場面も多く、特に顕微鏡を使った観察ではとても楽しんでいる様子でした。実験の楽しさや難しさを大いに経験できた1日となったようです。

（農学部）



あぐり博士（志村教授）の説明を聞く親子



顕微鏡を使って染色したアミロプラストを観察する子どもたち

国際広報メディア・観光学院で教育・研究交流 「TLLPスタディ・セッション」を開催

国際広報メディア・観光学院では、10月24日（金）～27日（月）にタンデム・ランゲージ・ラーニング・プロジェクト（Tandem Language Learning Project、以下「TLLP」という。）スタディ・セッション」を開催しました。

TLLPとは、国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院、イギリス・シェフィールド大学、フィンランド・ヘルシンキ大学、オーストラリア・メルボルン大学の間で行われている研究教育の交流プログラムです。ドイツ・ハインリッヒ・ハイネ大学デュッセルドルフ、ニュージーランド・ヴィクトリア大学ウェリントンは2019年から本プログラムに参加しています。本プロジェクトの目的は、①学生・教員を含めた双方の研究交流及び研究ネットワークの構築、②研究遂行（データ収集、インタビュー、研究発表、研究討論）のために必要となるアカデミックな言語スキルの獲得

にあります。具体的な教育プログラムの内容は、両大学の大学院生同士がペアを組み、互いに相手の研究のサポートをするタンデム・ラーニング、またその進展をオンライン上で支援する教員のアドバイス・システムが中心です。さらに、相互に相手の大学を訪問して研究発表や教育交流を行う「TLLPスタディ・セッション」を年に1回開催しています。

今年度のスタディ・セッションは、本学で開催され、国際広報メディア・観光学院から3名、海外からはヘルシンキ大学、メルボルン大学、ヴィクトリア大学ウェリントンから学生3名、ヘルシンキ大学、メルボルン大学、デュッセルドルフ大学から教員3名が参加しました。セッションでは、学生による研究発表、教員による講義、TLLP経験者によるワークショップなど、様々な研究・教育交流が行われました。TLLPの趣旨に基づき、本学の学生は英語

で、海外の参加大学の学生は日本語で研究発表を行いました。また、学生はセッションチェアも担当し、学会等どのようにセッションをチェアするかを経験する機会となりました。数か月にわたり、発表要旨、パワーポイント、発表原稿などについてお互いの研究をオンライン上で研鑽してきた成果が、スタディ・セッションで発揮されました。

2014年以降開催してきたTLLPスタディ・セッションも今年で12年目を迎えました。来年はメルボルン大学での開催が予定されており、メルボルン大学に複数の大学からの教員と大学院生が集う予定です。今後も、国際社会を舞台に活躍する研究者を育成することを目指し、海外諸大学とのこのような教育・研究交流を続けていきます。

（国際広報メディア・観光学院、
メディア・コミュニケーション研究院）



TLLPスタディ・セッションの様子



教員による講義の様子

メディア・コミュニケーション研究院附属東アジアメディア研究センターがミャンマーの民主化運動に関するイベント展示会及び講演会を実施

メディア・コミュニケーション研究院附属東アジアメディア研究センターは、これまでもミャンマーの民主化運動に関するイベントを開催してきましたが、今年も10月28日（火）～11月3日（月・祝）に札幌市資料館で、展示会「漫画で知るミャンマー 軍事独裁に抵抗する方法」を開催しました。期間中の2日（日）には、『緬甸、最後一搏』（日本語版タイトル『2月1日早朝、ミャンマー最後の戦争が始まった。』）を描いた台湾在住の漫画家 柳 廣成氏による講演会「目の前にいない誰か

の痛みを想像するために」を実施し、約40名が来場しました。

講演会では、中国語と日本語の通訳をメディア・コミュニケーション研究院の許 仁碩准教授、司会を下郷沙季学術研究員が務めました。柳氏は「（社会問題をテーマとした）漫画は、その問題を知らない読者に様々な感情を引き起こす。すぐに問題を解決することはできないが、人々が問題に関心を与えるための入り口をつくることが使命だ」「身元の特定を恐れて報道では写真や映像が使えない場面でも、漫画な

らリスクを避けて表現することができる」「私たちはミャンマーの人々の苦しみをすることも必要だが、そのことを通して、いつでも自分の知らないところで苦しんでいる人がいることを想像できるようになるべきだ」などと語りました。

当センターでは、来年1月18日（日）にもミャンマーの報道に関する講演会を実施する予定です。

（メディア・コミュニケーション研究院）



講師の柳氏



講演会の様子

音威子府村と北方生物圏フィールド科学センター中川研究林が 包括連携協定を締結

11月10日（月）に、北方生物圏フィールド科学センター森林圏ステーション北管理部中川研究林（北海道中川郡音威子府村、以下「当林」という。）と音威子府村との間で包括連携協定を締結しました。締結式には、音威子府村の遠藤貴幸村長、当林の野村 睦林長をはじめ、関係担当者が出席しました。

音威子府村は、人口約600人と小さ

な村です。これまで当林では、音威子府小中学校や北海道おといねっぶ美術工芸高等学校の自然体験学習、一般の方向けの自然観察会などを行ってきました。

これらの教育活動にとどまらず、学術・文化及び地域の発展に関する各分野の協力関係を深め、双方の発展と充実に寄与することを目的とし、包括連

携協定を結ぶ運びとなりました。

当林で行っている学術研究や持続的な森林管理を一層地域・村民に還元するとともに、地域の活動を教育にも生かすことにより、双方の発展に寄与すると期待されます。

（北方生物圏フィールド科学センター）



遠藤村長（左）と野村林長（右）



包括連携協定締結の様子

サイエンスカフェ「森と社会と（ちょっと）未来のはなし」を開催

10月7日（火）に総合博物館内併設のミュージアムカフェほらすに隣接する休憩スペースで、サイエンスカフェ「森と社会と（ちょっと）未来のはなし：第1回 家具から考える、人と森の豊かな関わり方」を開催しました。

令和5年に地域の家具・建築・デザイン等の事業者、森林関係者、研究者が連携し、北海道に広く生育するシラカバの恵みを生活・産業・文化に根付かせることを目的に、北方生物圏フィールド科学センター（以下「センター」という。）は一般社団法人白樺プロジェクトと連携協定を締結しました。これまでもセンター森林園ステーション（以下「研究林」という。）では、生産されたシラカバ材、枝葉や樹皮などのプロジェクトメンバーへの提供に加え、森林研究や施業のフィールドを訪れる「森林ツアー」、北管理部や旭

川市周辺でのサイエンスカフェの実施などイベントを重ねてきました。

今回は北大森林研究会も主催に加わり、札幌キャンパスで新しいかたちでのサイエンスカフェを企画し、ミュージアムカフェほらすのドリンクを片手に約30名が参加しました。

一般社団法人白樺プロジェクト代表理事の鳥羽山聡氏（木と暮らしの工房：東川町）にご登壇いただき、前半の「これまでの話」では、鳥羽山氏が北海道大学文学部を卒業後、外資系会社や林業会社での勤務を経て家具製作の道に入り、その後、会社の独立、素材としてのシラカバとの出会い、そしてプロジェクトの立ち上げに至った経緯が語られました。後半の「これから話」では、さらに一歩踏み込んで、モノづくりの観点からシラカバの魅力、無駄のない持続的な森林資源利用

や社会のあり方までに話が及びました。

森林研究会メンバーのアイデアで、講演者の一人語りではなく、インタビュー形式としたことで会場との一体感が生まれ、和やかな雰囲気を保ったまま90分のプログラムはあっという間に終了しました。対談で用いられる専門用語をやさしく解説した「用語集」の配布も功を奏して、意見交換の時間には多くの質問が寄せられ、終了後も議論が続きました。

センターと総合博物館、学生と社会人が一体となって企画したサイエンスカフェは様々な立場の聴衆の方々も加わり、多方面からの情報や意見、そして想いが交錯する場にすることができました。

（北方生物圏フィールド科学センター）



サイエンスカフェの案内



対談の様子



会場の様子



研究林のシラカバ材を用いた総合博物館休憩室の改装の計画を説明する吉田教授

「第23回脳科学研究教育センターシンポジウム」を開催

脳科学研究教育センターでは、11月18日（火）に医学部学友会館「フラテ」において、第23回脳科学研究教育センターシンポジウム（世話人代表：阿部匡樹研究企画専門委員長/教育学研究院教授）を開催し、53名が参加しました。今回のシンポジウムでは、「ヒトの不思議のニューロサイエンス：脳の不思議に迫り、その未知の力を引き出す」をテーマとし、4人のシンポジストに講演をお願いしました。

阿部教授（教育学研究院）による挨拶で講演が開始され、金子沙永准教授（文学研究院）による講演「錯視とその神経基盤：行動データからどこまで迫れるか」では、様々な錯視現象を紹介いただき、ヒトの行動データからそれらの現象の背後にある神経基盤にどれだけ迫れるのか、また何ができない

のかについて議論しました。

小川健二教授（文学研究院）による講演「熟達化に関わる脳内基盤」では、fMRIを用いた脳活動解析を用いた研究成果を紹介いただき、ピアノ熟達者と未熟達者の脳活動の違い、将棋熟達者の「脳内盤」イメージに関する神経基盤について興味深い報告がなされました。

古屋晋一リサーチディレクター（ソニーコンピュータサイエンス研究所）による講演「ダイナフォーミックス：音楽家の創造性を具現化するための心身の能力の限界突破」では、音楽家の技能の獲得・限界突破・喪失・再獲得に主眼を置いた研究成果や、それらに基づいて開発された熟達支援のためのテクノロジー及び音楽家のための身体教育プログラムPEACについてご説明

いただきました。

中澤公孝教授（東京大学）による講演「パラアスリートの脳：神経可塑性の可能性」では、障がいがあるアスリートの脳（パラリンピックブレイン）についての興味深い研究成果をご紹介いただき、パラアスリートが示す脳の再編能力の一端について議論していただきました。

いずれの講演でも活発な質疑応答が行われ、休憩時間中も会場の至る所で議論や情報交換が行われました。最後に南 雅文センター長の講評があり、盛況のうちに閉会となりました。今回のシンポジウムが参加者の皆様の興味を満たすとともに、新たな研究の展開へと繋がっていくことを願っています。

（脳科学研究教育センター）



金子准教授（北海道大学）



小川教授（北海道大学）



古屋リサーチディレクター
（ソニーコンピュータサイエンス研究所）



中澤教授（東京大学）

「脳科学研究教育センター合宿研修」を開催

脳科学研究教育センターでは、11月22日（土）から1泊2日で、札幌北広島クラッセホテルにおいて脳科学研究教育センターの合宿研修を行いました。

合宿研修には、南 雅文センター長をはじめ、教育学、理学、生命科学、医学、歯学、薬学、保健科学の各研究院・学院・学部・学部に属する教員15名、大学院生14名、研究生1名、学部生1名、共同研究員1名、事務職員2名の合計34名が参加しました。

2日間の研修では、大学院生・元履修生を含む教員等の口頭による研究発表（研修Ⅰ～Ⅳ・Ⅵ）、センター教員の講演（研修Ⅴ・Ⅶ）、意見交換（研修Ⅷ）を行いました。

脳科学専攻履修生による研究発表では、ようやく研究が本格化し始めたばかりの修士課程1年生だけでなく、昨

年も合宿研修に参加した修士課程2年生や博士課程の履修生の研究の進捗状況を知ることができました。センター教員の講演や元履修生でもある教員の講演では、興味深い最先端の研究について紹介されました。

どの研修でも活発な質疑応答が交わされたのみならず、休憩時間になってもあちこちで研究内容について情報交換がなされていました。これらの研修を通して脳科学研究への理解を深めるとともに、部局を越えた通常では交流機会のあまりない様々な分野の学生や教員が、一堂に会して交流を深めることが今後の研究を進めていくうえでの助けになるのではないかと期待しています。

参加者全員による投票では、生命科学学院修士課程2年の山下美記さん、生

命科学院修士課程2年の鈴木 光さん、保健科学院修士課程2年の小川直輝さんの3名が優秀発表賞に選ばれました。

本合宿研修は、ともすると所属研究室の研究テーマや実験手法のみに偏りがちな大学院教育を、分野の垣根を越えて融合させることを目指す本センターの最も重要な活動の一つとなっています。大変好評いただいている札幌近郊の温泉付きリゾートホテルでの合宿研修ですが、今後は隔年開催とし、来年度はより多くの方が気軽に参加できるよう学内での開催を予定しています。今後もセンター所属の教員・学生だけではなく、本専攻修了生や将来の履修生など多くの方の参加を願っています。

（脳科学研究教育センター）



集合写真



発表の様子



優秀発表賞表彰の様子

学生企画ミュージアムグッズの新展開

理学院の授業「博物館コミュニケーション特論 ミュージアムグッズの開発と評価」（指導：総合博物館 北野一平助教、湯浅万紀子教授）では、毎年、学生による総合博物館オリジナルのミュージアムグッズが企画開発されています。

昨年度の授業では2件のグッズが実現し、6月と10月にミュージアムショップぽとろで販売開始されました。1件目は3名の大学院生が企画した「オリジナルメガネクロス」（税込660円）です。幌満かんらん岩と渦鞭毛藻の2つのデザインがあり、いずれも総合博物館の展示に関連しています。前者は、日高山脈南西端の幌満川流域で産出する「幌満かんらん岩」の薄片標本を偏光顕微鏡を用いてクロスニコルとオープンニコルという2つの方法で観察した写真がデザインされています。それぞれの方法で観察されたかんらん石と

いう鉱物の特徴を確かめ、観察時に感じられた美しさを多くの人と共有したい、展示室「鉱物・岩石標本の世界」だけでなく博物館前庭のかんらん岩にも足を止めていただきたいとの思いで企画されました。後者は、展示室「生物標本の世界」にパネル展示されている、微細藻類の1つで主に海洋に生息する単細胞生物である「渦鞭毛藻」の多様な形態がデザインされています。各個体で異なる渦鞭毛藻の多様な形態の妙を伝えたいとの意図を込めて開発されました。

2件目は4名の大学院生が企画したオリジナルの「ネクストラップ」（税込660円）です。ポップな動物編とシックな植物編の2種類で、表裏に異なるデザインが施されています。動物編は、総合博物館と函館キャンパスにある総合博物館分館 水産科学館で収蔵・展示されている8種類の動物が博物館の

窓から外を覗いている姿が描かれ、裏面には表面とリンクした動物の館内での姿が描かれています。建物の外壁タイルや玄関アプローチ、窓枠、そして窓の外の移ろう空の色や星空、雪景色など、細部のデザインも注目ポイントです。植物編は、『北大総合博物館のすごい標本』（総合博物館編・北海道新聞社出版、2020）に掲載された博物館の収蔵標本の写真から選定された14種類の標本がデザインされており、裏面にはそれぞれの学名が示されています。幅広い年代の方々に日常使いして、総合博物館の展示や標本に関心をもっていただきたいという思いが込められています。

いずれにも学生が執筆して当該分野の研究者が監修した解説書が付いています。

（総合博物館）



オリジナルメガネクロスと標本ラベル仕様の解説シート



企画した大学院生



オリジナルネクストラップとブックタイプの解説シート



企画した大学院生

学生相談総合センターが「第2回学生相談フォーラム」を開催

9月24日（水）、学生相談総合センター主催の「第2回学生相談フォーラム」を、学生交流ステーションにて開催しました。「学生相談フォーラム」は、本学の学生支援に関わる専門職のカウンセラー及び学生支援に関わる教職員等の関係者が集まり、専門的な見地から情報共有や意見交換を行うものです。全学規模で関係者間の相互の信頼関係を強化し、学生支援の体制を充実させることを目指して、様々な形式で年に数回開催しています。

今回は、東京大学相談支援研究開発センター学生相談所所長の高野 明教授を講師としてお迎えし、「支援する場を育む—実践から学ぶネットワークづくり」というテーマで、講演と質疑応答を約40分、続いてグループに分かれてのディスカッションとそのシェア

リングを約50分、計1時間30分で実施しました。

はじめに高野教授から、東京大学における学生相談の全体像について、組織編成に加えて日々の連携や危機対応をどのように行っているか、模擬事例を含めてお話しいただきました。参加者からは活発に質問が寄せられ、大学間の違いや共通点から、全学での連携について改めて考える良い機会となりました。続いて、「連携・ネットワーク作りのためのワーク」を、部署をまたいだ3～4名のグループに分かれて行いました。ざっくばらんに日々の困りごとを共有することで、各部署の相談状況について理解や共感が進むだけでなく、実際にどのような対応や連携が可能かアイデアを出し合える時間になりました。全体として終始和やか

で、今後の支援や連携に繋がる有意義な研修となりました。

今回は18名の教職員が参加し、アンケートからは「日頃から人と人とのつながりを大切にすることで、連携しやすいネットワークが作られることを実感した」「困り感を共有し、様々な視点からの意見や情報を伺えて非常に参考になった」「学生相談フォーラムのような機会を今後も大切にしていきたい」といった回答が得られました。

学生相談総合センターでは、今後も学生相談フォーラムを定期的に開催する予定ですので、皆様のご参加をお待ちしております。

（学生相談総合センター）



当日の様子

■表敬訪問

海外

年月日	来 訪 者	来 訪 目 的
7.11.5	ソウル大学校（大韓民国） Taekyoon Kim 副学長	第28回北海道大学－ソウル大学校 ジョイントシンポジウム
7.11.26	マードック大学（オーストラリア） Simon McKirdy 副学長	今後の交流に関する懇談



Taekyoon Kim ソウル大学校副学長（左から4人目）



Simon McKirdy マードック大学副学長（左から3人目）

（国際部国際連携課）

■ 人事

令和7年12月1日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【総長補佐】 （期間：令和8年3月31日まで）	中 島 尚 子	大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授
【副研究科長・副研究院長等】 大学院医学研究院副研究院長 （期間：令和9年3月31日まで）	矢 部 一 郎	大学院医学研究院教授
【教授】 大学院水産科学研究院教授 大学院工学研究院教授	浦 和 寛 葛 隆 生	大学院水産科学研究院准教授 大学院工学研究院准教授

新任教授紹介

令和7年12月1日付



水産科学研究院教授に

うら かずひろ
浦 和寛 氏

海洋応用生命科学部門
増殖生物学分野

最終学歴

北海道大学大学院水産学研究科博士後期課程修了（平成9年3月）
博士（水産科学）（北海道大学）

専門分野

海産無脊椎動物の生理学



工学研究院教授に

かつら たかお
葛 隆生 氏

環境工学部門環境工学分野
環境システム工学研究室

生年月日

昭和54年11月26日

最終学歴

北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了（平成18年9月）
博士（工学）（北海道大学）

専門分野

環境エネルギー工学、建築設備工学

■ 訃報

名誉教授 宇井 理生 氏
(享年92歳)



名誉教授 宇井理生先生が、令和7年10月27日にご逝去されました。

宇井先生は昭和8年に東京都で誕生され、同30年東京大学医学部薬学科をご卒業後、大学院博士課程を退学して同33年に本学医学部薬学科の助手に採用され、同39年に薬学部助教授、同48年に薬学部薬効学講座の教授に昇任されました。その後、昭和61年に出身大学の卒業時の在籍講座である東京大学薬学部生理化学講座教授に配置換となり、平成5年に60歳で定年退職されて北海道大学及び東京大学の名誉教授の称号を授与されました。ご退職後は、

理化学研究所特別招聘研究員、東京都臨床医学総合研究所長を歴任され、さらに平成16年からは徳島文理大学香川薬学部長、高崎健康福祉大学薬学部長をお務めになり、私学の薬学教育発展にも尽力されました。

宇井先生による本学薬学部での教育・研究期間は、人生の充実期20～50歳代の約30年にわたります。宇井先生は、生体の機能を司るホルモンなどの細胞外シグナルが細胞内に作用する情報伝達の仕組みを、「個体に侵襲を与えて隠された真理をあぶり出す」という独自の研究哲学で解析し、シグナル伝達の新しい研究領域を開拓されました。特に、受容体刺激を介する三量体GTP結合タンパク質（Gタンパク質）については、その機能を阻害することで毒性を発揮する百日咳菌毒素の作用機序を解明し、毒素を探索指針として、セカンドメッセンジャーであるcAMP合成酵素の促進・抑制に加え、Gタンパク質は多彩なシグナル伝達経路に広く介在することを次々と解明されました。平成6年のノーベル生理学・医学賞は、「Gタンパク質とその細胞

内情報伝達に関する役割の発見」によって米国のギルマン博士とロッドベル博士の二人に与えられましたが、宇井先生による「広範なシグナル伝達系へのGタンパク質の介在」という研究貢献は顕著ながらも、受賞候補の「第三の男」だったのでしょうか。

宇井先生の深遠な研究哲学と教育理念は若手研究者を惹きつけ、これまでに多くの学生・大学院生を教育され、生命科学分野に優秀な研究者を輩出されてきました。これらの優れた業績に対して、上原賞（1987）、日本薬学会賞（1990）、日本学士院賞（1993）、ポール・エールリッヒ国際医学賞（1993）などを受賞されています。さらに、平成30年には文化功労者、令和3年には東京都名誉都民に顕彰されました。

ここに謹んで宇井先生の学術研究のご発展と人材育成へのご貢献に改めて感謝申し上げますと共に、謹んで哀悼の意を表します。

（薬学研究院・薬学部）

令和7年度外国人留学生数

【部局別】

学部等

令和7年11月1日現在

部局名	国費留学生		外国政府派遣留学生		私費留学生		合計
	学士課程	研究生等	学士課程	研究生等	学士課程	研究生等	
文部科学省	3 (1)	2 (1)			2 (2)	63 (38)	70 (42)
教育科学省	1					13 (10)	14 (10)
法務省	1					5 (3)	6 (3)
経済産業省					1	31 (17)	32 (17)
理化学省	15 (2)				25 (9)	2	42 (11)
医療省					2 (1)	1 (1)	3 (2)
薬学省						1	1
工農省	10				8 (1)	18 (2)	36 (3)
獣医学省					1 (1)	10 (6)	11 (7)
水産省					1 (1)		1 (1)
現代日本学プログラム課程	11 (6)				7 (3)	8 (3)	15 (6)
総合教育	10 (4)				33 (17)		44 (23)
合計	51 (13)	2 (1)	0	0	108 (44)	152 (80)	313 (138)

大学院等

部局名	国費留学生			外国政府派遣留学生			私費留学生				合計
	修士課程	博士課程	研究生等	修士課程	博士課程	研究生等	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	
法学研究科	1	2 (1)	1				18 (8)	1	9 (3)	10 (4)	42 (16)
水産科学研究院	1 (1)	3 (1)			1	5 (3)	12 (1)		22 (6)	4 (2)	48 (14)
環境科学研究院			1							3 (3)	4 (3)
地球環境科学研究院	8 (4)	22 (8)	2		1 (1)	1 (1)	57 (27)		95 (44)	2 (1)	188 (86)
地理科学研究院	3 (3)	9 (3)	2		1		15 (3)		36 (8)	21 (10)	66 (18)
理学研究科										10 (3)	10 (3)
農学研究科	9 (8)	14 (11)					22 (12)		28 (17)	1	74 (48)
先端生命科学研究所	8 (5)	22 (8)			2		20 (7)		45 (19)	10 (5)	98 (39)
教育学研究科	1				1 (1)		16 (12)		18 (15)	3 (2)	39 (30)
国際広報メディア・観光学研究科	4 (2)	2 (1)	1 (1)				69 (55)		39 (24)	9 (9)	123 (91)
メディア・コミュニケーション研究科		2 (2)					6 (4)			18 (12)	18 (12)
保健科学研究科			5 (4)						5 (1)		13 (7)
工学研究科	24 (7)	22 (6)			3 (1)	1	68 (12)		98 (23)	14 (5)	230 (54)
総合化学研究科		1	2 (1)							24 (7)	26 (8)
経済学研究科	2 (1)	1			3 (3)		33 (7)		40 (13)	12 (4)	89 (27)
経済学研究所							38 (18)	2 (1)	19 (11)	5 (5)	67 (36)
医学研究科		2 (1)			1		10 (5)		60 (29)	1 (1)	74 (36)
歯学研究科										7 (3)	7 (3)
歯学研究所									25 (14)		25 (14)
獣医学研究科										12 (7)	12 (7)
獣医学研究所		14 (9)							15 (7)		29 (16)
文学研究科	3 (3)	8 (5)					61 (41)		56 (31)	5 (3)	133 (83)
文学研究科										7 (2)	7 (2)
情報科学研究科	1	5	3		3		25 (5)		37 (10)	4 (2)	75 (17)
医工学研究科							3 (2)		8 (3)	12 (3)	15 (3)
国際感染症学研究所		19 (13)									11 (5)
国際食資源学研究所		4 (3)					1		30 (14)		49 (27)
公共政策学教育部								12 (7)	14 (6)		19 (9)
アイソトープ総合センター											12 (7)
電子科学研究所										4 (2)	4 (2)
遺伝子病制御研究所										1 (1)	1 (1)
触媒科学研究所										3 (1)	3 (1)
人獣共通感染症国際共同研究所			1 (1)							6 (3)	6 (3)
情報基盤センター										5 (1)	5 (1)
量子集積エレクトロニクス研究センター										2	2 (1)
北方生物圏フィールド科学センター			1 (1)							4 (2)	4 (2)
アイヌ・先住民研究センター			1 (1)							2	2
スラブ・ユーラシア研究センター										4 (2)	5 (3)
北極域研究センター										1	2 (1)
高等教育推進機構										1 (1)	1 (1)
合計	65 (34)	152 (72)	20 (9)	0	16 (6)	7 (4)	474 (219)	15 (8)	700 (299)	306 (141)	1,755 (792)

日本語研修生等

高等教育推進機構	日本語・日本文化研修生		日本語研修生		合計
	国費	私費	国費	私費	
	18 (13)	32 (22)	7 (4)	12 (6)	69 (45)

外国人留学生総数（「留学」以外の在留資格の者を含む）

学部留学生	大学院留学生			研究生等	日本語・日本文化研修生 日本語研修生	留学生総数	外国人学生 （「留学」以外）	留学生及び外国人学生 総計
	修士課程	専門職学位課程	博士課程					
159 (57)	539 (253)	15 (8)	868 (377)	487 (235)	69 (45)	2,137 (975)	65 (38)	2,202 (1,013)

*（ ）内は女子を内数で示す。

*修士課程には博士前期課程を，博士課程には博士後期課程を含む。

*研究生等には特別研究学生及び特別聴講学生を含む。

（学務部国際交流課）

令和7年度国別外国人留学生数

令和7年11月1日現在

地域	国 (地名)	国 費 留 学 生										外 国 政 府 派 遣 留 学 生						私 費 留 学 生										合 計						
		学 部		日本語・ 日本文化 研 修 生	大 学 院					特 別 研究学生	小 計	学 部		日本語・ 日本文化 研 修 生	大 学 院					特 別 研究学生	小 計													
		学 士	研 究 生		学 士	修 士	専門職 学 位	博 士	特 別 研究学生			学 士	研 究 生		特 別 聴講学生	日本語・ 日本文化 研 修 生	修 士	専門職 学 位	博 士			研 究 生	特 別 研究学生	特 別 聴講学生										
アジア	インド	2(1)		1(1)	1(1)	10(4)		11(9)				25(16)				4(3)				1(1)	2	27(12)				2(1)	36(17)	61(33)						
	インドネシア	3(2)				9(8)		20(12)		1(1)		33(23)				3				1(1)	12(4)	24(12)	1	1		6(3)	48(20)	81(43)						
	カンボジア	1				1(1)						2(1)																2	4(1)					
	シンガポール																				1(1)								5(2)	5(2)				
	スリランカ					6(5)		5(2)				11(7)																	4(3)	15(10)				
	タイ	6(2)		1(1)		3(2)		8(7)	1			19(12)				8(3)					2(2)	2(1)												
	台湾															3	2(2)	11(4)	1(1)															
	大韓民国	7		2		1(1)		3(2)				13(3)				3																		
	中華人民共和国							15(6)	5(3)			21(10)				12(1)		50(23)	1(1)			23(4)	1(1)	23(8)	3(3)				11(1)	114(42)	127(45)			
	ネパール							2				3				20(14)	36(32)	28(15)	23(13)			37(183)	14(7)	447(197)	132(66)	27(15)	16(9)		1182(551)	1286(571)				
	バキスタン					1		6(3)	1	1		9(3)																		3(1)	6(1)			
	パングラデシュ					3(2)		10(3)	1			14(5)																		8(3)	17(6)			
	フィリピン	3				5(3)		9(3)	1			18(6)				7(3)														16(7)	30(12)			
	バトナム	2			1(1)			4(2)				7(3)				2(1)																		
	マレーシア	2(1)		1(1)		3(1)		5(2)				11(5)																		1(1)	14(9)	21(12)		
	ミャンマー	1(1)		1(1)		1(1)		1(1)	1			4(3)																						
	モンゴル	2(1)	1	1		2(2)		2(2)				6(3)																			2(1)	6(4)		
	小計(17カ国)	29(8)	1	8(5)	2(2)	42(27)		101(54)	11(4)	2		196(100)				16(6)	7(4)	23(10)	68(36)	38(34)	91(44)	25(15)	4(4)	650(213)	15(8)	626(268)	180(72)	36(20)	34(20)	1567(724)	1786(834)			
中東	イスラエル	1										1																			1			
	イラク					1(1)						1(1)																			1	1(1)		
	イラン			1(1)				1				2(1)															1				1	3(1)		
	オマーン																								1(1)						1	1(1)		
	シリア							2(2)				2(2)																			2(2)			
	トルコ	2				1						3																			3(2)	6(2)		
	ヨルダン																														1(1)	1(1)		
	レバノン							1				1																			1			
	小計(8カ国)	3		1(1)		2(1)		4(2)				10(4)												2(2)		4(2)					6(4)	16(8)		
	ウガンダ							1				1																				1		
	エジプト	1						2(1)				3(1)												1	3(2)						4(2)	7(3)		
	エチオピア					1						2																				5	7	
	ガナ							3(2)	1(1)			4(3)												1	3						4	8(3)		
	カメルーン							1				1																				1		
	ケニア																								1							3(2)	5(2)	
	コンゴ民主共和国																																4(1)	4(1)
	ザンビア					1(1)		9(5)				10(6)																						
	シエラレオネ							1				1																						
ジンバブエ																																		
スーダン							1				1																							
タンザニア																																		
チュニジア																																		
ナイジェリア			1				4	2(2)			7(2)																							
ナミビア							1(1)				1(1)																							
ブルキナファソ																																		
ボツワナ																																		
マダガスカル			1(1)				1				2(1)																							
マラウイ						1	2(1)	1			4(1)																							
マリ						1					1																							
南スーダン							1				1																							
モーリシャス							1(1)				1(1)																							
モザンビーク																																		
モロッコ																																		
リベリア																																		
ルワンダ							1				1																							
小計(26カ国)	1		1(1)	1	4(1)		30(11)	4(3)			41(16)				1	1(1)																		
大洋州	オーストラリア							1(1)				1(1)																						
	ニュージーランド			1(1)				1				2(1)																						
	バヌアツ					1(1)					1(1)																							
	バブアニューギニア																																	
	フィジー																																	
	小計(5カ国)			1(1)		1(1)		2(1)				4(3)				3(1)	1(1)		1(1)															
	アメリカ合衆国	4(2)			3(2)		2		1			10(4)				18(5)				3(2)	3(2)	3(1)	2											
	カナダ							1				1																						
	小計(2カ国)	4(2)			3(2)		3		2			12(4)				19(5)				3(2)	3(2)	7(1)	2											
	北米	アルゼンチン																																
エクアドル								2				2																						
エルサルバドル																																		
グアテマラ		1				1		1				3																						
コロンビア					1(1)		1(1)					2(2)																						
ジャマイカ							1		1(1)			2(1)																						
チリ							1																											

北大時報掲載記事事項一覧（令和7年掲載分）

総長告辞等

- 1月号 ・年頭の挨拶
4月号 ・告示（学士学位授与式、入学式）

全学ニュース

- 1月号 ・総長年頭挨拶
・次世代の女性教員を顕彰する「桂田芳枝賞」授与式を挙行
・令和6年度北海道地区大学SD研修「大学職員セミナー」を開催
・サイエンスフェスタ2024を開催
・新渡戸カレッジ公開シンポジウム成果報告会を実施
・令和6年度現代日本学プログラム課程卒業論文ポスター発表会を開催
・第19回（令和6年度第2回）新渡戸カレッジメンターフォーラムを開催
・全学インターンシップ成果発表会（国内）及び経済同友会連携インターンシップ成果発表会を開催
・IT Job Fair in Hokkaido Universityを開催
・北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）
・令和6年度第2回部局・分野横断技術交流会「共焦点顕微鏡の観察技術向上セミナー プロのテクニックと秘訣、おしえます」を開催
・「社会起業家になろう！アントレプレナーシップワークショップ」を沖縄で開催
・「釜山9大学グローバル創業コンペティション」を開催
・「第16回コラボ学長フォーラム」に産学・地域協働推進機構の土屋 努副理事及び椎名希美特任准教授が登壇
・研究シーズの事業化支援プログラム「北海道BRAVE2024」のキックオフイベントを開催、経営者候補とのマッチング等を実施
・カリフォルニア大学バークレー校「Berkeley SkyDeck」チームが本学を来訪
・「巖鷲寮（佐藤・新渡戸記念寮）」の創立記念式典（寮祭）で、横田 篤理事・副学長が講演
・クイーンズ大学副プロボストが来学、横田 篤理事・副学長とサステナビリティに関する意見交換を実施
・WOMAN EXPO 2024 Winterで北大ブランドを紹介
・エコプロ2024に出展
・令和6年度第2回サステナビリティ推進員会議を開催
・「きたみてガーデンSDGs農園」プロジェクトを含む北海道マラソン2024 SDGsの取組が日本陸連アスレティックス・アワード2024で「BEST THINK賞」を受賞
・5大学主催Postgrad Job Fairを開催
・公開シンポジウム「誰もががっつき合う共生のまちづくり～演劇教育が創る未来のビジョン～」を開催
・「北海道大学 2024 DEIキャンペーン 連続講演会」を開催
・「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ講師が講義、見学を実施
- 2月号 ・大学入学共通テストの実施
・北海道大学一般選抜の志願状況
・フロンティア入試Type I 最終合格者の発表
・国際総合入試合格者の発表
・現代日本学プログラム課程「ゲストレクチャー・ワークショップシリーズ」を開催
・キャリアセンター主催「ファイターズスポーツ&エンターテイメント社員協力 グループワーク実践講座」を開催
・朴 喆熙駐日大韓民国特命全権大使による講演会を開催
・函館市と包括連携協定を締結
・北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）
・令和6年度第4回北海道大学技術職員横断連携体験実習を実施
・総合イノベーション創発機構オープンセレモニーを挙行
・第1回北海道大学統合技術連携シンポジウムを開催
・「北海道大学・NTT・NTT東日本との連携プログラム協議会及び技術交流会」を実施
・JICAモンゴル事務所と連携し、インターンシップ・プログラムを実施
・産学・地域協働推進機構が「みどりのワークショップ」を開催
・体験型ワークショップイベント「メタバース×AIは人の暮らしに何をもたらすのか」を開催
・小中高生向け起業家育成リアル謎解きゲーム「スタートアップシティからの挑戦状 in 北海道大学」を開催
・第27回ソウル大学校－北海道大学ジョイントシンポジウムを開催
・「北海道大学GHGインベントリ2022」を策定
・日経ESGに総長インタビュー記事を掲載
・北大生協北部食堂に「浄水型ウォータースタンド」を設置
・「第20回世界冬の都市市長会議」において加藤 悟サステナビリティ推進機構教授が講演

- ・中学生対象の体験型科学実験教室を開催

3月号

- ・北海道大学一般選抜（前期日程・後期日程）の実施と合格者の発表
- ・令和6年度「北海道大学総長表彰」表彰式を挙
- ・第1回オープンアクセス・オープンサイエンス推進セミナー「即時オープンアクセスと研究データ管理の実践」を開催
- ・「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」伴走チームによるサイトビジットの実施
- ・北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）
- ・令和6年度北海道大学・北海道地区国立高等専門学校技術職員交流研修を開催
- ・nano tech 2025に出展
- ・「HACK FOR IMPACT: 共創で未来を生み出すハッカソン」を実施
- ・高校生向け起業体験プログラム「Startup Base U18 in札幌西高校」を実施
- ・「アントレまちなか留学」を開催
- ・「科学と野球で学ぶアントレプレナーシップ～科学実験・野球教室～」を開催
- ・「学校EXPO in新宿高島屋」に出展
- ・米国マサチューセッツ大学アマースト校とシードファンドを開設
- ・SDGs北海道セミナー2025を開催
- ・「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 講師が講義、見学を実施

4月号

- ・令和6年度学位記授与式の挙
- ・令和7年度入学式の挙
- ・半導体フロンティア教育研究機構を設置
- ・「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」における連携研究プラットフォーム採択課題への認定証交付式及び事業説明会を実施
- ・令和6年度「北海道大学永年勤続者表彰」表彰式を挙
- ・名誉教授に41氏
- ・令和6年度「北海道大学職員表彰」表彰式を挙
- ・令和7年度北海道大学の予算
- ・令和6年度新渡戸カレッジ修了式（学部教育コース）を挙
- ・新渡戸カレッジ修了式（大学院カリキュラム）を挙
- ・令和6年度現代日本学プログラム課程学士学位記授与式を開催
- ・令和6年度Integrated Science Program（ISP）修了式を挙
- ・令和6年度北海道大学大塚賞授与式を挙
- ・令和6年度北海道大学鈴木章記念賞－自然科学実験－表彰式を挙
- ・令和6年度北海道大学クラーク賞授与式を挙
- ・令和6年北大えるむ賞授与式を挙
- ・「一般教育演習：グローバル・キャリア・デザイン」第34回FSPアジアを実施
- ・令和6年度北海道大学 HUCI&教育改革室フォーラム／SGU総括・大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業採択キックオフシンポジウム「HOKUDAI国際教育のパラダイムシフト：SGUから多文化共修への深化」を開催
- ・Vlog動画コンテスト「How's your HokuDay?」の開催
- ・北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）
- ・キャリアセンターと先端人材育成センターが合同で北海道大学キャリア支援シンポジウムを初開催
- ・一般教育演習（フレッシュマンセミナー）「夢を再び（PBL授業）」を開講
- ・「全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム」に参加
- ・起業シミュレーション型アントレプレナーシップ教育イベントを開催
- ・レジリエンスアントレプレナー育成イベント「『知る』から『動く』へ法律×実践力で、災害に立ち向かう力を学ぶ」を開催
- ・国際スタートアップカンファレンス「Hokkaido Innovation Week」にてサイドイベント等を実施
- ・メルボルン大学とのマッチングファンド2025を採択
- ・「帝国の世界秩序とその後を考える北大・UMAシンポジウム」を開催
- ・北海道大学×日本証券業協会SDGsシンポジウム「北海道から拓く持続可能な未来－産官学連携によるGX金融の推進－」に横田 篤理事・副学長が登壇
- ・ウェルネス推進プロジェクト「H-ARTs（ハーツ）」の健康イベントに364人が参加
- ・第2回北大女性教授ネットワークの会を開催
- ・「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 講師が講義、見学を実施

5月号

- ・福岡 淳名誉教授に紫綬褒章
- ・春の叙勲に本学から3氏
- ・HOSSOを開室
- ・新入留学生オリエンテーションを実施
- ・令和7年度4月採用 北海道大学次世代AI博士人材フェローシップ採用者ガイダンスを開催

- ・北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）
- ・きたキッチンで「北海道大学フェア」を開催
- ・月形町でローカル起業を目指すプログラム「ツキビズキャンプ2025」を実施
- ・北海道内の研究開発型スタートアップ創業支援プラットフォームにおける活動報告とスタートアップに関する基調講演を行う「HSFC DAY」を開催
- ・研究シーズの事業化支援プログラム「北海道BRAVE2024」の成果報告会を実施
- ・アントレプレナーシップ教育成果報告イベント「HOKKAIDO INNOVATION HUNTER 2025」を開催
- ・北海道内の高等学校5校の総合的な探究の時間にてアントレプレナーシップ教育を実施
- ・立命館慶祥中学校・高等学校にて「アントレプレナーシップ講座」を実施
- ・北海道のGX推進に向けて三菱UFJ信託銀行株式会社の寄附講義開講をコーディネート
- ・第1回広報アンバサダーミーティングを開催
- ・「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ講師が講義、見学を実施
- ・インターンシップ&就職活動スタートアップガイダンスを開催～令和7年度キャリアセンター就職ガイダンスがスタート～
- ・函館キャンパスにてインターンシップ&就職活動スタートアップガイダンスを開催

6月号

- ・真弓明彦氏 北海道大学総長顧問に就任
- ・春のガレージセールを開催
- ・「北海道大学・ニトリ海外留学奨学金」感謝状贈呈式を挙行
- ・札幌キャンパスで第22回「キャンパス・クリーン・デー」を実施
- ・スーパーグローバル大学創成支援事業（SGU事業）事後評価で「A」評価を獲得
- ・北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）
- ・総長一行がメルボルン大学を再訪
- ・企業人事担当者が語る「北大生採用のリアル」オンラインパネルディスカッションを開催
- ・北海学園大学との合同グループディスカッション講座を開催
- ・2025年度全学インターンシップ履修説明会をオンラインにて開催
- ・Panasonicグループ考案の仕事体験ビジネスゲーム「THINK IMPACT」を開催
- ・業界研究ガイダンス「メーカー編」「総合商社編」を開催
- ・札幌国際情報高等学校でアントレプレナーシップ教育の出張講義を実施
- ・北海道大学知的財産セミナー「未活用特許で事業創造～その実践と新たな仕組み～」を開催
- ・椎名特任教授が文部科学省「アントレプレナーシップ推進大使」として全国5校で講演・ワークショップを実施
- ・「Hokkaido 海のクリーンアップ大作戦！vol.5」に参加
- ・「北海道大学GHGインベントリ2022」英文概要版・解説動画を公開
- ・博士人材と企業の情報交換会「第58回赤い糸会（化学・バイオ系）」を対面で開催
- ・サイエンスレクチャー2025「ダイナソー小林の恐竜研究最前線」を開催

7月号

- ・北海道大学ディステイングイッシュトプロフェッサーの称号を付与
- ・北海道大学ディステイングイッシュトリサーチャー称号授与式を挙行
- ・名誉教授称号授与式の挙行
- ・「同志社創立150周年記念講演会 in 札幌」において、横田 篤理事・副学長が「北海道大学のサステイナビリティ追求の歴史と現在地」と題して講演
- ・北海道大学フェロシップ全体交流会を実施
- ・第20回（令和7年度第1回）新渡戸カレッジメンターフォーラムを開催
- ・令和7年度北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙行
- ・令和7年度出入国在留管理制度説明会を実施
- ・北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）
- ・2025年度キャリア支援・就職担当教職員情報交換会を開催
- ・2025年度北海道大学採用直結型企業面談会を開催
- ・ニトリホールディングス新卒採用責任者による特別講座「北大生限定ニトリインターンシップ体験Workshop」を開催
- ・株式会社シグマックス現役コンサルタントを講師に招き「コンサルタントの思考法」講座を開催
- ・電通開発の発想力育成プログラム「IDEATION FACTORY」を開催
- ・北海道大学×北海道農政事務所「みどりのワークショップ」を開催
- ・地域イノベーションプロデューサー塾・アドバイザー塾 ベーシックコースの入塾式及び入塾研修を実施
- ・北海道大学FMI施設公開イベント「SDGs×ビジネス万博」を開催
- ・「ネイチャーポジティブに関する産学連携セミナー」を開催
- ・「カーボンニュートラルとネイチャーポジティブの視点から『北大キャンパスの未来』を考える2-dayワークショップ」を開催
- ・ウェルネス推進プロジェクト「H-ARTs（ハーツ）」で「無料で健康チェック！」を実施
- ・Digital Creative Grids（グリッズ）を開設
- ・「北海道大学・自治体連携フォーラム」設立記念シンポジウムを開催

8月号

- ・北海道大学栄誉賞を加藤 元氏に授与
- ・千本倅生氏が北海道大学総長顧問に就任
- ・北大・日立協働教育研究支援プログラム交流会を実施
- ・現代日本学プログラム課程「ゲストレクチャー・ワークショップシリーズ」を開催
- ・令和7年度北海道大学宮澤記念賞授与式を挙
- ・令和7年度北海道大学新渡戸賞授与式を挙
- ・令和7年度北海道大学レーン記念賞授与式を挙
- ・第64回全国七大学総合体育大会開会式を開催
- ・札幌キャンパスで特定外来生物（オオハンゴンソウ）等防除を実施
- ・総長記者懇談会を開催
- ・北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）
- ・大学生・高校生等対象アントレプレナーシップ教育イベント「Hakodate Re-Discovery：自分×函館の可能性」を開催
- ・株式会社HBA連携講義の最終発表会を実施—学生のアイデア実現へ
- ・令和7年度第1回サステイナビリティ推進員会議を開催
- ・北海道大学「北大道新アカデミー」2025年度前期プログラムを開催

9月号

- ・株式会社セブン-イレブン・ジャパンと「災害時における物資供給に関する協定」を締結
- ・おしよ丸が教育関係共同利用拠点に再認定
- ・令和7年度「北海道コンフェクトグループ奨学金海外留学支援」壮行会を挙
- ・日本学術会議と公開シンポジウム「次の新興・再興感染症にどう備えるか」を開催
- ・IRAFFキックオフシンポジウム「北海道から世界へ—リジェネラティブな食料生産システムの未来」を開催
- ・札幌キャンパスを駆け抜ける—北海道マラソン2025—
- ・北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）
- ・小学生から大学生まで、半導体にふれる2週間—「半導体Week2025」を開催
- ・高度半導体人材育成に向けた大きな一歩—海外の半導体研究施設に大学院生2名を派遣することが決定—
- ・技術連携統括本部ITeCH発足記念キックオフシンポジウムを開催
- ・ブダペスト工科大学から技術職員が来訪、研修を実施
- ・令和7年度オープンキャンパスを開催
- ・第3回Listプラットフォームシンポジウムをドイツにて開催
- ・免疫ふしぎ未来2025に初出展
- ・STARTUP HOKKAIDO連携講義「社会課題を読み解き未来を生き抜くフューチャースキルを育てよう」を実施
- ・中学生向けリーダー研修「ツキビズキャンプジュニア」で講師を担当
- ・UMass Amherstプロボストが北大を訪問
- ・国連大学SDG大学連携プラットフォーム共通講義「国連SDGs入門」を開講、大学間交流会に参加
- ・Hokkaidoサマー・インスティテュート（HSI）科目「国際SDGs入門」を開講
- ・「サステナ KIDS サマースクール」を実施
- ・ウェルネス推進プロジェクト「H-ARTs（ハーツ）」で「無料で健康チェック！」を実施
- ・釧路市×北大まると交流祭を開催
- ・「国民との科学・技術対話」支援事業 今年度は31名の研究者が参加

10月号

- ・THEインパクトランキングで6年連続国内1位を獲得
- ・佐藤昌介初代総長と盛岡高等女学校生徒との記念写真を受贈
- ・令和7年度北海道大学インターンシップを実施
- ・JST「未来の博士フェス2025」にEXEX/次世代AI博士人材フェローシップ支援学生が参加
- ・HTB秋の大感謝祭にて「ミライをテラス！北大サイエンスひろば」を実施
- ・令和7年度Integrated Science Program（ISP）入学式を挙
- ・第74回東北・北海道地区高等教育研究会を開催
- ・令和7年度北海道大学鈴木章記念賞—自然科学実験—被表彰者の決定
- ・第64回全国七大学総合体育大会閉会式を開催
- ・研究データエコシステム北海道コンソーシアム設立シンポジウムを開催
- ・北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）
- ・半導体人材育成拠点形成事業（enSET）に採択—北海道大学が中核となり、北海道地域の連携による人材育成を推進—
- ・令和7年度 北海道大学技術研究会2025を開催
- ・北海道大学のインターンシップの取組が横本記念賞を受賞
- ・「北海道シリコンバレー連携サマープログラム2025」を開催
- ・「北の大地で学ぶ 地域課題解決キャンプ」を実施
- ・「HFX Kickoff Week」で学生Buddyが活躍
- ・北大ラズベリー®が真狩高等学校で栽培開始
- ・大学院共通授業科目「さっぽろゼロカーボン特論」を開講

- ・北海道マラソン連携プロジェクト「きたみてガーデンSDGs農園」を実施
- ・官学連携による「カーボンニュートラル夏季短期学習プログラム」を実施
- ・カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション第5回全体シンポジウムに横田 篤理事・副学長が登壇
- ・環境省主催「SDGs Students Dialogue Expo 2025 (SSDE)」に本学学生が参加、大阪・関西万博で発表
- ・映画『はくが生きてる、ふたつの世界』上映会と呉 美保監督特別講演を開催
- ・博士人材と企業の情報交換会「第59回赤い糸会」を対面で開催

11月号

- ・次期総長予定者として現総長の寶金清博氏を選出
- ・秋の叙勲に本学から4氏
- ・創基150周年カウントダウンイベント「北海道大学ホームカミングデー2025」を開催
- ・令和7年度「局所排気装置等の定期自主検査者講習」を開催
- ・北海道大学職員採用試験内定者懇談会を開催
- ・令和7年度新渡戸カレッジ入校式を開催
- ・ベスト・エクセレント・ティーチャー表彰式を举行
- ・福利厚生会館北部食堂が「HBAライラック食堂」に名称変更－株式会社HBAとネーミングライツ契約を締結－
- ・新入留学生オリエンテーションを実施
- ・秋のガレージセールを開催
- ・高大連携による「Hokkaido Study Abroad Program」を開催
- ・「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」学内向け事業説明会を開催
- ・令和7年度国際インターンシップ全学成果報告会を開催
- ・国際宇宙大学・エグゼクティブコース2025北海道を開催
- ・地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）連携研究プラットフォーム研究者交流会を開催
- ・「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」伴走チームによるサイトビジットを実施
- ・ワイン教育研究センター棟（旧昆虫学及養蚕学教室）の「HOKKAIDO WOOD BUILDING」への登録及び登録証交付式
- ・令和7年度北海道大学職員研修「『北大キャンパス』を知る（おしよ丸・函館キャンパス編）」を実施
- ・「東京サピアアカデミー」で北海道大学が講義を実施
- ・北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）
- ・令和7年度北海道大学進学相談会を開催
- ・第5回鈴木章賞授賞式及び第9回ICReDD国際シンポジウムを開催
- ・札幌キャンパスが地域生物多様性増進法に基づく自然共生サイトに認定
- ・「SDGs北海道実践・交流セミナー2025」を開催
- ・「北海道大学サステナビリティ推進セミナー」に横田 篤理事・副学長、石井一英サステナビリティ推進機構カーボンニュートラル推進部門長が登壇
- ・ウェルネス推進プロジェクト「H-ARTs（ハーツ）」で「無料で健康チェック！」を実施
- ・台湾で学ぶ「デザイン×起業」Taiwan Innovation Journeyを実施
- ・株式会社HBAとの共催で「Hokkaido-UP! Workshop」を開催
- ・「第10回 NoMaps Dream Pitch 2025」を開催
- ・「HSFC DemoDay 2025」を開催
- ・「Go Go 未来スカベンジャーズ！in 岩見沢」を開催
- ・地域起業のリアルに触れる「沖縄アントレツアー」を実施
- ・「HOKKAIDO NEXT CHALLENGERS MEETUP」を開催
- ・「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 講師が講義、見学を実施

12月号

- ・令和7年度医学教育等関係業務功労者表彰に本学関係者から2氏
- ・大学入学共通テスト 本学一般選抜個別学力検査等 実施体制等の決定
- ・フロンティア入試合格者の発表
- ・国際総合入試合格者の発表
- ・帰国生徒選抜合格者の発表
- ・私費外国人留学生（学部）入試合格者の発表
- ・事務局が「災害等危機対策本部設置訓練」を実施
- ・TEATIME with Face2Face特別講義「Dr. Yokoの睡眠マネジメント～眠るほど、ぐんぐん仕事とうまくいく～」を開催
- ・令和7年度小島三司奨学金受給者の決定
- ・令和7年度北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を举行
- ・令和7年度「北海道大学企業研究セミナー」を開催
- ・北海道大学新プロモーションビデオを公開
- ・学生の手で北大の魅力を世界へ 第2回Vlogコンテスト「How's your HokuDay? 2025 Summer」の開催
- ・北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）
- ・北海道ビジネスEXPOに出展―半導体研究の最前線を企業・行政へ発信―
- ・総合イノベーション創発機構ワクチン研究開発拠点で市民公開講座を開催

- ・BioJapan 2025に出展
- ・「地域みらいキャリア【大学探究コース】」を実施
- ・「R-DePIN ―北海道×地域創生を軸としたWeb3とDePIN活用アイデアソン―」を実施
- ・「DEMOLA HOKKAIDO 2025 2nd Batchファイナルデモンストレーション」を実施
- ・産学・地域協働推進機構が「北海道大学新技術説明会」を開催
- ・「Save the Ocean in 函館」プレイベントを開催
- ・「まちなかENGLISH QUEST」を実施
- ・「メイブツクエスト」を実施
- ・ASEAN外交官らが北海道大学を訪問、アントレプレナーシップ教育を紹介
- ・シンガポールにおける産学連携と国際協働の推進
- ・米国UMass Amherstと技術職員研修を実施
- ・北海道大学×STV SDGsデー2025を開催
- ・「北海道大学GHGインベントリ」が「サステイナブルキャンパス賞2025」を受賞
- ・本学がホスト校となりCAS-Net JAPAN年次大会2025を開催

部 局 ニ ュ ー ス

- 1月号**
- ・クリエイティブワークショップ「Adobe Expressを使って魅力的なコンテンツを作ろう！～誰でもかんたんにできる。もっと良くなる。その技術と知識」を開催
 - ・経済学部で特別講演会を開催
 - ・経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センターがシンポジウムを開催
 - ・経済学院・経済学研究院・経済学部で令和6年度外国人留学生懇親会を開催
 - ・「社会体験ワークショップ」をオープンコースウェアで公開～北海道大学、北洋銀行ほかによる社会体験のための実践的授業～
 - ・生命科学院が「IGPシンポジウム」を開催
 - ・工学系部局で「こころの健康セミナー」を開催
 - ・公開セミナー「山岳観光とアドベンチャーツーリズム」を開催
 - ・低温科学研究所技術部で第30回技術報告会を開催
 - ・人獣共通感染症国際共同研究所と創成研究機構ワクチン研究開発拠点国際シンポジウム「第12回人獣共通感染症克服のためのコンソーシアム会議」を開催
 - ・スラブ・ユーラシア研究センター冬期国際シンポジウム「スラブ世界における言語・ネイション・標準化：その類似と相違」を開催
 - ・北方生物圏フィールド科学センター研究林からサイエンスフェスタに初出展
 - ・広域複合災害研究センターが令和6年度防災シンポジウム「北海道における広域複合災害と減災方策」を開催
 - ・「レバンガ北海道」が北海道大学病院で子どもたちと交流
 - ・北海道大学病院で「第64回ふれあいコンサート クリスマスの夕べ」を開催
- 2月号**
- ・生命科学院博士後期課程科目少人数討論型育成プログラム（北大帝人ブレインストーミングワークショップ）「自分の研究・アイデアをビジネスにしよう」を実施
 - ・第19回医学研究院連携研究センター研究成果発表会を開催
 - ・工学研究院・情報科学研究院・量子集積エレクトロニクス研究センター・工学系事務部で「安全保障輸出管理FD・SDセミナー」を開催
 - ・環境科学院・地球環境科学研究院でFD研修会を開催
 - ・「森のたんけん隊2025冬」を開催
 - ・環境健康科学研究教育センター公開セミナー「日本におけるプラネタリーヘルスの取り組み」を開催
 - ・自分に合ったツールが見つかる「文献収集・管理ツール講習会」を開催
- 3月号**
- ・理学院物性物理学専攻と国立台湾成功大学理学院物理学系がダブル・ディグリー・プログラムの覚書の細則を締結
 - ・先端生命科学研究院ソフトマター国際連携ユニット（SMCR）がLeNet 国際シンポジウム「Low Entropy Soft Matter」を開催
 - ・令和7年度薬学実務実習開始セレモニーを挙行
 - ・総合化学院と国立陽明交通大学理学院がダブルディグリープログラムを締結
 - ・令和6年度農学研究院FD研修会を開催
 - ・北海道札幌北高等学校が遺伝子病制御研究所にて職場体験プログラムを実施
 - ・人獣共通感染症国際共同研究所、総合イノベーション創発機構ワクチン研究開発拠点ディスティンゲイッシュトプロフェッサーの鈴木定彦教授がタイ王国ラーマ10世からタマサート大学名誉博士号を授与
 - ・北方生物圏フィールド科学センター研究林が中川町のきこり祭に初出展
 - ・環境健康科学研究教育センターが公開セミナーを開催
- 4月号**
- ・経済学院がベスト・チューター賞授与式を開催
 - ・メルボルン大学とのジョイントワークショップを開催

- ・令和6年度北海道大学スマート物質科学を拓くアンビシャスプログラム第2期生修了式を開催
- ・令和6年度北海道大学物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム修了式を開催
- ・医学研究院医理工学グローバルセンターが第7回GCB分子生物医科学・診断学ウィンタースクール及び第11回GCB医学物理ウィンタースクールを開催
- ・医学部が令和6年度最終講義・退職記念式典を挙行政
- ・歯学研究院で統合URA本部との共同企画セミナー「共同研究がもたらす研究力向上と今後の発展～国内共同研究から国際協働へ～」を開催
- ・薬学研究院で生成AIに関するFD研修会を開催
- ・薬学研究院が「第20回薬学研究院研究発表会」を開催
- ・工学部で救急救命講習会を開催
- ・国際広報メディア・観光学院が台北にて留学生向け説明会を実施
- ・国際広報メディア・観光学院がフィンランド・ヘルシンキ大学及び豪・メルボルン大学との教育・研究交流「TLLPスタディ・セッション」を開催
- ・日米緊急対話「トランプ復活とロシア・ウクライナの行方」を開催
- ・令和6年度北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 耕地圏・水圏ステーション技術職員専門研修を開催
- ・臼尻水産実験所・七飯淡水実験所で樹木処理の作業を通じた技術交流事業を実施
- ・「冬の植物園ウォッチング・ツアー」を開催
- ・環境健康科学研究教育センターがクイーンズランド大学CHRCとLOIを締結
- ・脳科学研究教育センター脳科学（発達脳科学）専攻第21期修了生に修了証書授与
- ・総合博物館で第17回「卒論ポスター発表会」を開催

- 5月号**
- ・医学部にネーミングライツ施設「Shikishima Lecture Room」が誕生
 - ・北方生物圏フィールド科学センター研修会を開催
 - ・北方生物圏フィールド科学センター植物園でWi-Fi HaLow™対応カメラシステムの構築に係る現地見学会を実施
 - ・第6回北の森林（きたのもり）サイエンスCAFEを開催
 - ・脳科学研究教育センター脳科学専攻の開講式を挙行政

- 6月号**
- ・「広域複合災害研究センターと釧路市との連携協力協定締結式」を開催
 - ・令和7年度第1回文学研究院FDを開催
 - ・函館キャンパスで「春のキャンパス一斉清掃」を実施
 - ・中谷宇吉郎・湯川秀樹による書画の公開を大学文書館で開始
 - ・看護の日イベントを開催

- 7月号**
- ・韓国ソウル大学校言語学科との合同シンポジウムを開催
 - ・令和7年度医理工学院博士後期課程中間発表会を開催
 - ・歯学研究院で北海道大学歯学部同窓会によるiPad贈呈式を挙行政
 - ・工学女性増加プロジェクト「We are Engine.－女性エンジニアは世界のエンジンだ－」を始動
 - ・環境科学院で北大祭・研究施設公開「環境科学を体験しよう！」を開催
 - ・メディア・コミュニケーション研究院、観光学高等研究センターが国際会議ICDES2025を開催
 - ・米国マサチューセッツ大学アマースト校との果樹園連携を開始
 - ・武部 新文部科学副大臣が本学を視察

- 8月号**
- ・経済学部成績優秀者表彰式を挙行政
 - ・経済学部「グローバル・チャレンジ賞（横山和子賞）」表彰式を挙行政
 - ・経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センターセミナーを開催
 - ・会計専門職大学院が公認会計士制度説明会を開催
 - ・令和7年度理学院優秀研究奨励賞授賞式を挙行政
 - ・令和7年度分島亮研究奨励金授与式を挙行政
 - ・医学研究院が豪メルボルン大学とワークショップ「気候変動×移民の健康～日豪を結ぶ課題と可能性」を開催
 - ・北海道大学納骨堂慰霊式を挙行政
 - ・農学研究院で客員教授への感謝状贈呈式を挙行政
 - ・獣医学研究院で加藤 元先生の北海道大学栄誉賞受賞を祝福
 - ・スラブ・ユーラシア研究センター2025年度夏期国際シンポジウム「ユーラシアの地殻変動：過去と現在」を開催
 - ・学生相談総合センター学生相談室主催の「新学期に役立つ！春のワークショップ」を開催
 - ・「自分に合ったツールが見つかる！文献収集・管理ツール講習会」を開催
 - ・北海道大学病院で「第65回ふれあいコンサート 七夕の夕べ」を開催

- 9月号**
- ・メルボルン大学との教育学研究院会談を開催
 - ・公共政策大学院が「観光」をテーマに「HOPS地方議員公務員向けサマースクール」を開催
 - ・第1回医学・薬学研究院合同シーズセミナーを開催

- ・医学研究院ヘルスケアAIXイノベーションセンターが第4回北海道大学医療AIシンポジウムを開催
- ・Health Science Exchange Program 2025 in Shiraiの開催
- ・歯学研究院で統合URA本部との共催によるセミナー「若手研究者のための科研費申請の書き方」を開催
- ・歯学研究院でソウル大学歯学部とジョイントシンポジウム・サテライトセッションを開催
- ・薬学研究院で知的財産と産学連携に関するFD研修会を開催
- ・薬学研究院が「第21回薬学研究院研究発表会」を開催
- ・工学研究院で「安全衛生に関する説明会」を開催
- ・農学部・農学院とシンガポール国立大学間で「Joint Summer Programme in Japan and Singapore」を開催
- ・農学研究院で第15回Sapporo Alumni Lecturesを開催
- ・第43回あぐり大学「札幌キャンパス生き物探し」を開催
- ・令和7年度水産学部公開講座「海をまるごとサイエンス！」が終了
- ・メディア・コミュニケーション研究院が日仏4大学共同研究プロジェクトの一環として国際会議を開催
- ・北方生物圏フィールド科学センター森林圏ステーション北管理部が「森林（もり）の市」に初出展
- ・「北大研究林サイエンス体験ツアー」を開催
- ・和歌山研究林創立100周年記念 古座川町中学生の北海道大学札幌キャンパス等見学会を開催
- ・パネル企画展示「北方古地図展（第二期）北方図の変遷」を開催中

10月号

- ・医学部が「Dean's Lecture」を開催
- ・医学研究院医理工学グローバルセンターが第8回GCB分子生物医科学・診断学サマースクール及び第12回GCB医学物理サマースクールを開催
- ・医学研究院医理工学グローバルセンターが国際シンポジウム「The 12th GCB Biomedical Science and Engineering Symposium」を開催
- ・北海道医療AIビジネスプランコンテスト2025を開催
- ・医学部・歯学部合同慰霊式を挙行
- ・医学研究院が動物慰霊式を挙行
- ・令和7年度北海道大学スマート物質科学を拓くアンビシャスプログラム（SMatS）第7期生採用式を開催
- ・農学部・農学院・農学研究院において「留学生見学旅行」を開催
- ・第44回 あぐり大学「草からできる牛乳」を開催
- ・GCF国際シンポジウムSustainability in Agriculture, Food, and Healthを開催
- ・メルボルン大学とのワイン研究ワークショップを開催
- ・地球環境科学研究院が令和7年度公開講座「地球をまもる化学：サステナブルな未来への挑戦」を実施
- ・低温科学研究所が「未来の女性研究者のための最先端研究体験プログラム」を実施
- ・遺伝子病制御研究所が動物慰霊式を挙行
- ・スラブ・ユーラシア研究センターがサマースクールを開催
- ・新学際大規模計算機システム運用開始記念式典を挙行
- ・第7回北の森林（きたのもり）サイエンスCAFEを開催
- ・第47回なよろ産業まつりへ参加
- ・環境健康科学研究教育センターがHokkaido and Melbourne Joint Research Workshopを開催
- ・環境健康科学研究教育センターがワライラック大学公衆衛生大学院とのMoU更新
- ・総合博物館が博物館実習を実施

11月号

- ・和歌山研究林で創立100周年記念の式典等を開催
- ・道産ワイン気候変動対策・普及啓発事業ワークショップ「ワインと科学のハーモニー：持続可能なワイン生産と地域の力」を開催
- ・会計専門職大学院が税理士制度説明会を開催
- ・会計専門職大学院が特別講演会を開催
- ・医学研究院がAMED 医学系研究支援プログラムのキックオフシンポジウムを開催
- ・薬学研究院で「10th Japan-Taiwan Joint Symposium for Pharmaceutical Sciences」を開催
- ・獣医学研究院及び人獣共通感染症国際共同研究所で動物慰霊式を挙行
- ・函館キャンパスで防火・防災訓練を実施
- ・国際広報メディア・観光学院 ソウルにて留学生向け説明会を実施
- ・低温科学研究所が自然科学研究機構生命創成探究センターと連携協定を締結
- ・環境健康科学研究教育センターが令和7年度前期「社会と健康」修了生にディプロマを授与
- ・広域複合災害研究センターが令和7年度防災シンポジウム「地震が引き起こす広域複合災害の影響と減災」を開催
- ・学生相談総合センター主催、高等教育研修センター共催「北海道大学全学FD・SD研修2025年度学生相談講演会」を開催
- ・「GitHubを使いこなそう！オープンツール活用講習会」を開催
- ・附属図書館で「防災訓練」の実施

12月号

- ・低温科学研究所の青木 茂教授が第67次南極地域観測隊の隊長に就任
- ・「よりよくくらす会議」を開催―脱炭素を軸に企業・自治体・大学が語る対話の場

- ・法学研究科・法学部が札幌司法書士会と連携協定を締結
- ・会計専門職大学院で日本内部監査協会と共催セミナーを開催
- ・経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センターがシンポジウムを開催
- ・経済学部が札幌国税局長の特別講演会を開催
- ・医学部にネーミングライツ施設「ほくやく・竹山 講堂」が誕生
- ・医学部にネーミングライツ施設「なの花 kitchen」が誕生
- ・保健科学研究院公開講座「ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ」を開催
- ・令和7年度薬学部成績優秀賞授与式を挙行政
- ・第45回 あぐり大学「イモはどうやってできる？」を開催
- ・国際広報メディア・観光学院で教育・研究交流「TLLPスタディ・セッション」を開催
- ・メディア・コミュニケーション研究院東アジアメディア研究センターがミャンマーの民主化運動に関するイベント展示会及び講演会を実施
- ・音威子府村と北方生物圏フィールド科学センター中川研究林が包括連携協定を締結
- ・サイエンスカフェ「森と社会と（ちょっと）未来のはなし」を開催
- ・「第23回脳科学研究教育センターシンポジウム」を開催
- ・「脳科学研究教育センター合宿研修」を開催
- ・学生企画ミュージアムグッズの新展開
- ・学生相談総合センターが「第2回学生相談フォーラム」を開催

※それ以外の項目については、記載を省略しています。

(社会共創部広報課)

編集メモ

- 来年2月4日（水）～11日（水・祝）に開催される「2026 さっぽろ雪まつり（第76回）」大通会場7丁目・HBC広場に、北海道大学の古河講堂をモチーフにした大雪像が登場します。創基150周年を迎える2026年を記念した雪像です。会場では、学生団体によるステージイベントや展示ブース、北海道大学オリジナルグッズの販売なども予定しています。皆様のご来場をお待ちしております。

- ・北海道大学 お知らせ

<https://www.hokudai.ac.jp/news/2025/12/2026.html>

- ・さっぽろ雪まつり大通会場

<https://www.snowfes.com/sites/odori/>





キャンパス懐古 09 北大正門の前を走る市電(1963年12月)

日本・アジアで初開催の冬季オリンピック競技大会である、札幌冬季オリンピック（1972年）の開催に合わせて地下鉄南北線が開業する以前、北大キャンパスに沿った通称「北大通り」には札幌市電の鉄北線が走っていた。

札幌駅前から北大正門前、北大病院前、北17条、北21条、北24条と電停があり、さらに新琴似駅前まで続

いていた。札幌駅前から南には、三越前、すすきのへと至った。

通学・通勤の、そして大学から街へ出る足として長く親しまれた市電は、北大生の生活風景の中に溶け込んでいた。

（大学文書館・北海道大学150年史編集室）

北大時報 ⑫ No.861 令和7年12月発行

北海道大学社会共創部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

<https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html>